

候
ヤンソン演説ノ大要

敬具

極東共和緩衝国出現前如何ニ外国軍隊カ「ソウエート」官憲ヨリ独立シ外國政府ノ承認ヲ得吾人ハ「ソウエート」官憲ヨリ独立シ外國政府ノ承認ヲ得
ヘキ国家ノ組織ヲ決意セリ吾人ハ憲法議会ヲ召集セリ吾人ハ此議会ヲ通シ外國資本ヲ誘致シ我富源ノ利用ニ資シ得ヘシト考ヘタリ然ルニ此期待ハ裏切ラレ極東共和国出現後モ依然トシテ戰争ハ繼續セラレ外國干涉ハ最近迄繼續セリ吾人ノ入手セル幾多ノ報道ニヨレハ北支那ニハ我領土侵撃ノタメ白衛軍ノ殘党集中シ張作霖ハ我方トノ關係ニ於テ宛然日本ノ役割ヲ演セントシツアリ我方ニ好意ヲ持テル支那國民カ何故ニ白軍ヲ援助スルヤ此レ疑モナク日本カ其勢力下ニアル支那ノ將軍連並ニ白軍ヲ通シ内政干涉ヲナシ居ルナリ而シテ内政干涉ハ尚持続セラルヘク之ヲ防禦スルノ良策ハ「ソウエート」露國トノ合同ニアリ
千九百二十年頃幾多共產黨員ハ我方カ民主的憲法政治ヲ採用スルニ於テハ民主政體タル米國ヨリ真先ニ承認セラレ得ヘシト考ヘタリ此レ大ナル誤謬ナリキ日米両國ハ利益相一致セルヲ以テ浦潮港内ニ尚内政干涉ヲ繼續シツツアリ即チ

日本ノ巡洋艦ハ尚同港内ニ泊シ居レリ
大連及長春ニ於ケル會議ニ於テ日本ハ常ニ吾人ト民主共和的ニ会商セリサレト「ソウエート」露國ヨリ隔在セル小邦タル吾方ハ「ソウエート」露國ノ提出セル如キスル要求ヲナシ能ハサリキ
又經濟關係ニ於テモ吾人ハ「ソウエート」露國ヨリ隔絶セル一小國ニ過キル關係上多大ノ損失アリ我民主的憲法政治ハ獨リ国外ノミナラス国内ノ陰謀ヲモ避クルコト能ハス有產階級者ハ吾人ト全然意見ヲ異ニシ國境外ヨリ劍ヲ以テ我方ニ対抗セン事ヲ予期セル將軍ト結托シ吾人ヲ眼下ニ扱ヒタリ
我等ハ勞農「ソウエート」露國ヨリ隔絶セル一小國ニ過キサリシカ故ニ帝國主義的ノ侵略者ノ蹂躪ニ任セタリ然ラハ吾人ハ何人ト提携スヘキヤ露國ナリヤ將タ日本ナリヤ其何レカラ選択スル必要アリ二者ノ中間ヲ選フ必要ナシ革命的労農「ソウエート」露國ト共ニスルカ若クハ帝國主義的有產階級者ト共ニスルカラ決定スルノ要アリ而シテ我領土ヲ完全ニ保全セントスルニハ只一勞農「ソウエート」露國ノ指導ニ待ツアルノミトス云云

事項一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件

五九一 一月七日 外務省公表

極東西比利亞ニ於ケル日本軍ノ行動、日本政 府ノ態度ニ關スル虚偽ノ宣伝ヲ反駁ノ件

公表第一号

大正十一年一月七日公表 外務當局談

帝国ハ自衛上已ムヲ得ス極東西比利亞ニ駐兵スルモノナルヲ以テ露国人ノ政争ニ対シテハ敵正中立ノ態度ヲ維持シ同地方ノ政情安定シテ速ニ撤兵シ得ルニ至ランコトヲ希望スルモノナルコトハ帝國政府ノ屢々宣明セル所ナリ然ルニ一部露西亞人ハ自己ノ党派ニ不利益ナル事態ノ發生スル毎ニ帝國ノ態度ヲ中傷非難シ甚シキニ至テハ全然虛構ノ事實ヲ捏造シテ宣伝ヲ行フモノアルハ殆ト彼等ノ心事ヲ解スルニ苦マサルヲ得サル所ナリ客年五月浦潮ニ政變起り知多政府ノ勢力同地方ヨリ一掃セラルルヤ一時日本軍ノ白党援助ヲ宣伝シ其後大連會議開催、「ツエトリン」ノ浦潮密行、日本軍ノ「マルクロフ」政權ニ対スル武器供給拒絶等ノ事實

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 五九一

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 五九二

七〇〇

ヲ沈メテ水道ヲ閉塞シ奥地ニ逃走シタルモノニシテ其ノ後日本軍同地ニ到着スルヤ直ニ生存露人ノ救済、水道ノ開通等ニ從事シタルモノナリ

日本軍ハ白軍ニ武器ヲ供給シ内乱ヲ助長シ依テ以テ駐兵ノ口実ヲ得ムトスト為スカ如キハ寧ロ滑稽ニ属ス蓋シ帝国ハ露国民カ一日モ速ニ内争ヲ止メ極東露領ノ政情安定シテ撤兵シ得ルニ至ラムコトヲ希望スル外他意ナク日本軍ハ浦潮領事団ノ要望ヲ容レ公安維持上絶対ニ必要ナル最少限度ノ武器ヲ從来許容セラレ居ル一定数ノ民警用トシテ地方自治機関ニ交附シタルニ過キスシテ白軍ニ武器ヲ供給シタルコト絶対ニ無シ右ハ「メルクロフ」政権カ日本ヨリ武器供給ヲ受ケ得サル為日本ヲ非難スル事實ニ微スルモ明カナルヘシ最近白色軍ノ活動ハ日本軍トハ全然關係ナク彼等ハ地方農民ノ後援ト赤軍ヨリ分捕シタル武器トニヨリテ其ノ勢力ヲ増大シツツアリト云フ

日本ハ大連會議ニ於テ駐兵ノ承認ヲ求メ且韃靼海峡沿岸ノ割譲ヲ求ムル等極東露領ヲ其ノ手中ニ収ムルカ如キ要求ヲ為シタリト云フハ事実ヲ誣フルコト最甚シキモノナリ大連會議ノ主要目的ハ極東露領ニ於ケル帝國臣民ノ生命財産並

スル件

第五八四号

(二月五日接受)

在当地露國大使館ハ西比利亞問題ニ關シ大要左ノ通り新聞記者ニ声明セリ

西比利亞ニ於ケル日本陸軍ノ行動ハ日本外務省及全權ノ聲明ト左ノ三点ニ於テ矛盾ス

(一)日本軍ハ從来露国内政ニ干渉セリ先ニ「コルチャック」ガ聯合側ノ援助ニ依リ將ニ全露國政府ヲ破壊セントスルニ當リ「セミヨノフ」ヲ支持シテ之ニ反対セシメ次デ一九二〇年四月浦潮政府ニ干渉シテ露國ノ官衙ヲ閉鎖シ且露國軍ノ武装ヲ解除セリ

(二)露國ノ諸政團ハ日本軍西比利亞ニ駐屯スルガ為秩序維持及鞏固ナル政府ノ樹立ヲ妨ゲラルモノナリト思料ス日

本軍ハ西比利亞ニ於テ排他的特權ヲ要求スルコトナシト

主張スルニ不拘軍事占領ノ蔭ニ隠レ漁業林業等ニ付地方の方策ナリト称スルモ事実ハ然ラズ日本軍同地方ニ於ケシツツアリ

(三)北樺太占領ハ「ニコラエフスク」事件解決ニ關スル一時の方策ナリト称スルモ事実ハ然ラズ日本軍ノ撤退問題一件

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 五九三

交通ノ危険及帝國ニ對スル脅威ノ除去、通商產業ノ自由等ニ關シ保障ヲ得以テ沿海州ヨリ撤兵ヲ實行セムトスルモノニシテ何等他意アルモノニアラズ

最近又華盛頓ニ於ケル極東共和國代表者ハ日仏兩國カ「ウランゲル」「セメノフ」一派ヲ援助シ西比利亞ヲ以テ恰モ日本ノ保護國ト為スカ如キ密約ヲ締結シタルトノ說ヲ流布シ右密約及關係公文書ナルモノヲ發表シタルカ右ハ惡意ヲ以テ捏造セラレタル全然虛偽ノ文書ニシテ日本政府及其官吏ハ仏國政府又ハ其他何人トノ間ニモ此ノ如キ交渉ヲ為シタル事絶対ニ無シ右偽造文書ノ一部ハ客年十一月勞農政府側ヨリ發表セラレタルヲ以テ當時帝國政府ハ在大連「チタ」政府代表者ヲ經テ強硬ナル抗議ヲ提起シタルカ今又政府代表者カ此ノ如キ虚構ノ事實ヲ流布シテ各国民間ニ不信不和ノ種子ヲ播カントスルハ最モ惡辣ナル國際的罪悪ニシテ世界ノ輿論ハ断シテ之ヲ仮借セサルヘキヲ信ス

五九一 二月一日 華府會議代表ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

西比利亞ニ於ケル日本陸軍ノ行動ヲ非難スル
在華盛頓露國大使館ノ新聞記者ヘノ声明ニ關

ル露國ノ制度ヲ廢シ日本施政ノ下ニ一切ノ住民ヲ支配シツツアリ

之ヲ要スルニ時局ノ鍵ヲ握ル者ハ西比利亞駐屯軍ノ行動ニシテ日本外務省及全權ノ声明ニアラズ日本軍人ノ行動ニシテ日本政府ノ声明ニ矛盾スル限り西比利亞問題ノ決定ヲ見ルトキナカルベシ日本ニシテ真實本問題ヲ解決セント欲スル次第ナルニ於テハ先づ西比利亞ヨリ撤兵ヲ實行スペキナリ

在欧各大使ヘ転電セリ

五九三 三月十二日 在英國林大使ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

反日委員会ガチタ政府代表覺書ト称スルモノ
ニ於テ日本軍ノシベリア出兵ヲ非難セル印刷

物ヲ配布ノ件

第一四八号 (三月十四日接受)

当地 Hands off Russia Committee ハ客年十二月十六日

附在莫斯科極東共和国政府代表 Kushcharov 覚書ト称スル左記要領ノ浮説ヲ掲ゲ之ニ例ノ日仏密約ノ摘要ヲ附記シ結論トシテ日本ガ完全ニ其軍隊ヲ「シベリア」ヨリ撤去ス

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 五九四

七〇一

ルニ至ル迄日本ニ対シ有ラユル「ボイコット」ヲ行フベキコトヲ勧告シタル印刷物ヲ當館ニ送附シ來リ右ハ同時ニ全

世界ノ主タル労働団体ニ配付セラレタルコトヲ附言シタル

ガ右極東政府代表者ノ覚書ハ未ダ新聞ニ報道セラレザルモ

同「コンミッチー」從来ノ遣口ニ顧ミ早晚労働機関紙其他ニ

依リ広ク社會ニ吹聴セラルベキハ疑ナキコト思量セラル

一、日本ハ沿海州並樺太ニ増兵シツツアリ有ラユル手段ヲ

以テ大運會議ノ不調ニ努メツツアルコト

二、日本ハ事實「メルクロフ」政府ニ金錢、軍需品ヲ供与シ「カッペリ」軍ノ進出ヲ助ケツツアルコト竝「カ」軍ガ

日本軍ノ援助ニ依リ所謂中立地帶ヲ占拠セルコト

三、齊多政府ノ左祖者「ツェトリーン」(Tzeitlin)ガ日

本軍ニ依リ浦潮ニ招致セラレ「メルクロフ」ノ手先ノ為慘殺セラレタルコト

四、四隻ノ駆逐艇、銅、鐵、鉄道材料其ノ他ノ貨物等有ラユル國有財產ガ日本人ニ廉売セラレ其ノ他ノ財產モ奪掠ヲ受ケタルコト

五、日本軍援護ノ下ニ「メルクロフ」政府ハ虐殺ヲ事トシ惡疫ニ藉口シテ在獄者ヲ生キ乍ラニ燒キ殺シ四肢ヲ切断シ

体禁止区域内ニ其軍隊ヲ進メサルヲ適當トスヘク殊ニ近ク基本協約並軍事協定ノ締結ヲ見ムトスル場合如此行動ニ出ツルハ齊多側ニ採リ極メテ不得策ナルヘキコトヲ嚴重ニ申入レラレ速ニ右地帶以外ニ撤退ゼンムル様取計ハレタン

五九五 三月三十一日 (浦潮派遺軍參謀長ヨリ
參謀次長宛(電報))

制限地域内ニ進入セル齊多軍ト日本軍トノ間

二發生セシ武力衝突事件ニ關シ報告ノ件

浦參謀第二二一号 (四月五日外務省写接受)

軍ハ帝國政府カ大連ニ於テ知多政府ト友好的交渉中ナルニ鑑ミ沿海州方面ニ於テモ百方手段ヲ尽シテ知多側ト葛藤ヲ生セサランコトヲ期シ客年五月政變後沿海州方面狀況全ク一変セシ後ト雖モ日露議定書ノ精神ヲ飽クマテモ尊重シ白軍側ニ對シテモ断シテ制限地域内武裝團体ノ存在、行動、武器輸送ヲ許容セス白軍破レテ南下スルニ當リテハ苟モ其制限地域ニアルモノハ之ヲ武裝解除セリコレ蓋シ日本軍ノ公明正大ナル中立態度ニ基クモノナリト雖モ知多側トノ葛藤ヲ努メテ避ケントシタル友好的意志ニ依ルモノ尠ナカラス而モ尚出先軍憲ノ誤解ニ基ク不祥事件ノ發生ヲ來スヲ恐

鼻眼ヲ殺グ等ノ殘忍ヲ教テシ其ノ數最近一個月ニ二百名ニ達シタルコト

六、個人或ハ團体ノ抗議ニ係ハラズ領事団ハ此ノ事實ヲ默過セルコト

七、極東ニ於テ日本軍隊ノ駐屯セザル地方ハ秩序整然トシテ此ノ種ノ慘害ナク何等ノ狼藉ヲ見ルコトナシ

五九四 三月三十日 (内田外務大臣ヨリ
松島政務部長(大連出張中)宛(電報))

齊多軍ノ武裝團体禁止区域内侵入ニ付齊多側

代表ペトロフニ警告シ該區域外ニ撤退セシム

ル様取計方訓令ノ件

第一〇四号

浦潮軍司令部ヨリノ報道ニ依レバ齊多軍約三千ハ二十六日「ウスリ」出發南下シ武裝團体禁止区域内ニ侵入セル趣ナル廻右ノ結果我方軍隊トノ間ニ衝突ヲ惹起シ由々シ結果ヲ見ルヤモ計り難キ次第ニ付貴官ハ「ペトロフ」ニ右ノ次第ヲ警告シ齊多側ニ於テ日本軍ヲ挑発スル意思ナキ以上ハ大正九年四月二十九日日露軍事代表者議定書竝ニ同年九月二十四日哈府撤退ニ關スル日露軍事協定ニ遵ヒ所謂武裝團

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 五九五

五九五 三月三十一日 (内田外務大臣ヨリ
松島政務部長(大連出張中)宛(電報))

七〇三

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 五九六 五九七

七〇四

ト解スルノ外ナシスノ如クシテ知多軍ノ南下シテ我軍ニ接近スルヤ我第一戦部隊ハ尚モ友好的関係ノ保持ヲ希望シ努メテ不慮ノ葛藤ヲ避ケントシ前方各方面ニ散在セル部隊ヲ

「スペースカヤ」附近ニ帰還セシメタリ然ルニ知多軍ノ暴戾ハ日本軍ノ誠意ヲ諒スルコトナク勢ヲ恃ミ空シキニ乗シ続々兵力ヲ増加南進シ二十六日頃ニハ遂ニ「スペースカヤ」北方「スイヤギー」附近ニ進出シ我軍ニ接触スルニ至レリ

二十七日「スイヤギー」北方八吉「ツホースコエ」附近ニ於テ知多軍ハ我斥候ニ向ッテ不意ニ射撃ヲ開始セリ又三十一日知多軍斥候約二十名ハ「スペ」東北十六吉「コンスター」チノフカ方向ヨリ来リ「スペ」東北方八吉ニアリシ我展望哨ニ向ッテ射撃ヲ開始シタルヲ以テ已ムヲ得ス応戦シ之ヲ擊退セリ茲ニ於テ軍ハ大連「ペトロフ」ニ対シ知多軍ノ暴戾ヲ責メ速ニ制限地域外ニ退去ヲ求メ肯カサレハ軍自ラ知多軍ノ武装解除ヲ施行スヘク之ニ依リ彼我活動ヲ惹起スルニ至ラハ其責任全ク知多側ニ在ルコトヲ警告シ其反省ヲ促セリ從テ今後知多軍ノ行動ニシテ尚改ムルコトナクンハ軍ハ当然断乎タル処置ニ出ツ可シ

大連、北京、閔東、朝鮮、薩哈唎、各特務スミ
容スルコトハ断シテ不可能ナルヲ以テ中央部ヨリ重ネテ松島ニ注意セラレタシ

五九八 四月六日 内田外務大臣ヨリ
在上海船津總領事事務
在奉天赤塚總領事臨時代理大使 各宛（電報）
スペースカエ附近ニ於ケル日本、齊多両軍衝突

二関スル件
合第一〇二号

最近齊多軍ハ浦潮軍ヲ追撃シテ南下シ日露軍事協定ニ基ク武装団体禁止区域（イマン以南鉄道沿線）ニ進入シ我守備隊ヲ脅威シタルモ我方ハ勉メテ衝突ヲ避ケ隠忍シツツ右区域外ニ撤退センコトヲ要求シタルモ赤軍ハ之ニ応ゼズ「スペースカエ」ノ北方約一里迄侵入シ我歩哨ヲ射撃スルニ至リ四月一日我軍ハ軍事協定ニヨリ彼等ノ撤退又ハ武装解除ヲ要求セシモ之ヲ拒絶シタルニ依リ遂ニ両軍砲火ヲ交ユルニ至リ其結果赤軍ハ死屍數十ヲ遺棄シテ退却セリ
(米ヘハ) 在歐各大使在米各総領事及瑞典波蘭へ転電アリタシ
(奉天ヘハ) 天津、哈爾賓、北京へ転電アリタシ
一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 五九八 五九九

三月三十一日 (浦潮派遣軍參謀長ヨリ)
參謀次長宛 (電報)

五九六

ニ注意スル様松島大連會議代表ヘ電報ノ件

（四月五日外務省写接受）

五九七

三月三十一日 (浦潮派遣軍參謀長ヨリ)
參謀次長宛 (電報)

五九八

ニ注意スル様松島大連會議代表ヘ電報ノ件

五九九

（四月五日外務省写接受）

浦参特第三四号 日本軍ハ齊多軍ノ浦潮進入ヲ断ジテ許容セザル旨松島大連會議代表ニ連絡方ノ件
浦参特第三四号 (四月五日外務省写接受)
極秘左ノ如ク松島ニ電報セリ、日本軍トシテハ事實上又ハ面目上此ノ際從來ノ我主張ヲ撤回シ知多軍ニ浦潮進入ヲ許
（上海ヘハ）香港、マニラ、シドニーへ転電アリタシ
（在上海船津總領事事務
在奉天赤塚總領事臨時代理大使 各宛（電報）
西比利亜ニ於ケル日本齊多両軍ノ衝突及日本ノ撤兵ニ付齊多側ノ声明及米国新聞ノ論評報
告ノ件
第一八一号
(四月八日接受)

四月三日東京発聯合通信ハ西比利亜撤兵促進ニ関スル閣議決定ヲ報シ四日發同通信ハ「スペースカヤ」ニ於ケル日本齊多両軍ノ衝突ヲ伝ヘタルガ右ニ付「スクビルスキ」ハ「ステートメント」ヲ發表シ本件衝突ハ日本政府ニ於テ熟慮シタル政策ノ結果ナルニ拘ハラズ日本ハ齊多側ノ不当ナル進撃ノ犠牲トナリタルカノ如ク吹聴シ居ルモノニシテ又過去ノ経験ニ依ルニ日本ハ西比利亜ニテ何事カヲ企テントスル前ニハ撤兵ヲ声明スルヲ常トス華府會議以来日本ハ「マルクロフ」軍ニ武器ヲ供給シテ「ハバロフスク」ヲ攻撃セシメ又ハ沿海州撤兵ノ条件トシテ利權ヲ要求スルガ如キ事実ニ徴スレバ今次ノ日本撤兵ノ声明モ其ノ真意ノ奈辺ニアルカラ知ルベシ云々ト述べ居レリ

五九九

七〇五

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六〇〇

七〇六

本件ニ就キ紐育「タイムズ」及「ワシントンポスト」（今
日迄ノ所前記二新聞ノミナリ）ハ此ノ際日本ノ採ルヘキ方
針ハ撤兵ニアリ日本ハ昨年「メルクロフ」軍ガ中立地帯ヲ
越エテ齊多軍ヲ攻撃シタル際ニハ阻止セズ齊多軍ガ「メ」

軍ヲ追撃セントスルニ当リ之ニ傷害ヲ加フル如キ偏頗ナル
中立地帯ヲ難ジ今次衝突ノ如キ不祥事ハ結局日本ガ西比利

亞ニ駐兵スルニ起因スルモノナリ露国裁（脱）ガ「ゼノア」

ニ附議セラレントスル今日日本ノ駐兵ハ老大ナル赤軍ヲ維
持スルノロ実ヲ与フルモノナリト論ジタリ

前記ノ如キ当地ニ於ケル齊多側宣伝ハ本件ノ発展ニ伴ヒ今
後益々頻繁ニ行ハルベシト想像セラル處當方ニ於テ本省
ヨリノ電報ヲ待チテ處理スル時ハ時機ヲ失スル虞アルニ付
今後ハ本省ニ於テ取消方取計ハレ度将又往電第一三四号ヲ
以テ申進シタル通り取消ハ單ニ消極的効果アルニ止マリ西
比利亞問題ニ就キ常ニ多大ノ注意ヲ払ヒ居ル當國ノ政界竝
輿論ヲシテ進ンデ我立場ヲ了解セシムル所以ニアラザル儀
ト思考セラルニ就テハ今次ノ事件ヲ始メ西比利亞問題ニ
関スル情報等ハ成ルベク詳細ニ發表セラレ通信社ヲシテ當
方ニ電報方取計ラハシメラル様致度シ

六〇〇 四月八日

内田外務大臣
在奉國佐分利ヨリ
在上海天赤塚總領事
在天津船津總領事
各宛（電報）

バスコエ方面ニ於ケル日本、齊多両軍ノ衝
突ノ経緯通報ノ件

合第一〇六号

白軍敗退後日露軍事協定ヲ無視シテ三月二十二日「ウス
リー」ニ前進シタル齊多軍ハ我軍カ隠忍衝突ヲ避クル為北
方部隊ヲ「バスコエ」ニ引揚ケタルニ乘シ益々南下シテ
二十八日「ズボフカ」及「シマコフカ」ニ進入シ其一部隊
ハ二十七日「スウヤギー」北方二里ニ於テ我斥候ヲ射擊シ
三十一日「バスコエ」東北約二里ニ於ケル我展望哨ヲ射
擊シ彼我間ニ銃火ヲ交フルニ至レリ我方ハ三十日松島ヲン
テ「ペトロフ」ニ対シ從来我軍ハ大連會議ニ鑑ミ隠忍齊多
軍トノ葛藤ヲ避ケント努メアルモ齊多軍カ制限地帯外ニ撤
退スルニアラサレハ之カ為ニ生スヘキ葛藤ノ責任ハ齊多側

会議代表ヘ電報ノ件

浦參特五三
(四月十三日外務省写接受)

極秘

左ノ如ク松島ニ電報セリ

本月五日附「ヤンソン」ノ我外務大臣宛抗議ハ我田引水ノ
捏造ニシテ弁明ノ価値ナキモ念ノ為

一、白軍ノ制限地域内ニ入ル者ニ對シテハ嚴重ニ武裝解除
ヲナセリ其ノ証拠ニハ目下制限地域内ニ於テ白軍ハ一人
ト雖武器ヲ有スル者ナシ

二、白軍ノ制限地域内ニ入レル場合武力ヲ以テ之ヲ掩護シ
或ハ武裝ノ儘制限地域内ノ通過ヲ許シ又右地域内ニ於テ
陣地ニ就クヲ許容セシコトナシ

三、戰闘開始ニ關シ「ヤンソン」ハ知多軍敵意ナキニ拘ラ
ス日本軍戰闘ヲ開始セリト云フモ元來今回ノ戰闘開始ハ
日本軍自ラ知多側ニ對シテ敵意ヲ起セシコトニ依リテ惹
起セシモノニアラス知多側ノ日露議定ヲ無視シ武力侵入
ヲ企テ之ヲ放置スルニ於テハ我軍ノ存立ヲ脅威スルニ依
リ止ムヲ得ス兵力ヲ以テ知多側ニ対抗セシ迄ナリ

（奉大ヘ）在支公使及天津、哈爾賓總領事ニ転電アリタ
シ
(上海ヘ) 広東、漢口、マニラ、シドニー、シンガポー
ル各總領事ニ転電アリタシ

六〇一 四月十一日 浦潮派遣軍參謀長ヨリ
陸軍次官宛(電報)

日本及齊多両軍ノ武力衝突ノ真相ヲ松島大連
一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六〇一

七〇七

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六〇一

七〇八

南進スヘキコトニ関シ協議スヘク特使ヲ派シタリトノコトナルモ同地附近ニ武装ノ儘駐屯スルコトノ不可能ナルハ我方ヨリ数回注意セシ如ク明瞭ナリ然ルニ之ヲ無視シ更ニ南方ニ前進スヘク協議セント考ヘシカ如キハ根本的ニ誤ナリ彼其ノ誤ナルヲ知ラサルニアラス我軍ヲ見縊リ武力侵入ヲ企テタルモノナリ若シ知多軍ニシテ我軍トノ衝突ヲ欲セサルニ於テハ何故ニ我再三ノ通告ヲ無視シ制限地域内ニ侵入セシヤ又特使トシテ「スペスカヤ」ニ來

リシ「レベデフ」ニ対シ同地我旅団長カ直チニ制限地域外ニ出ツルカ又ハ武装解除スルニアラスンハ日本軍ハ止ムヲ得ス武力ニ訴ヘテモ日露議定ノ遂行ヲナスヘシ通告シタルトキ彼我軍ニ敵意ヲ有セス又理ヲ解スルニ於テハ何故ニ直チニ之ニ応セサリシヤ而モ「ブツセフカ」ノ赤軍ノ武装解除ヲナサン為前進セシ我軍ニ対シ最初ニ銃火ヲ開キシモノハ赤軍ナリ加之知多軍ハ何等敵対行動ヲナサスト云フモ四月二日以前ニ於テ我騎兵斥候ヲ射撃シ或ハ我展望哨ヲ攻撃シ又ハ装甲列車ヲ「スペスカヤ」近クニ運行シ来リ続テ攻撃セシコトモ事実ナリ

四、右事実ニ依リ戦闘開始ノ責任ハ全然知多側ニ在ルコト赤軍ノ武装解除ヲナサン為前進セシ我軍ニ対シ最初ニ銃火ヲ開キシモノハ赤軍ナリ加之知多軍ハ何等敵対行動ヲナサスト云フモ四月二日以前ニ於テ我騎兵斥候ヲ射撃シ或ハ我展望哨ヲ攻撃シ又ハ装甲列車ヲ「スペスカヤ」近クニ運行シ来リ続テ攻撃セシコトモ事実ナリ

四、右事実ニ依リ戦闘開始ノ責任ハ全然知多側ニ在ルコト

明カナリ又「ヤンソン」ハ戦闘開始後知多軍カ退却スル際ニモ砲火ヲ浴ヒ乍ラモ敵対行為ニ出ツルコトナカリシト云フモ是又明瞭ナル偽ナルコトハ我軍ニ於テ死傷者アルコトヲ以テ証明シ得ヘシ

五、知多側ニシテ日本軍ノ戦闘ヲ中止セシメント欲セハ速ニ制限地域外ニ去ルノ方法アルノミト云々

各地 済

六〇二 四月十一日 在英國德川臨時代理大使ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

メイ、ティ祝賀委員会ハ日本ノ西比利亞撤兵
要求ノ決議ヲ為シ一大示威運動ヲ行フベキ旨

予告越セル件

第二四七号 (四月十四日接受)

往電第一四八号ニ関シ

英國二百四十ノ労働組合ヲ代表スルト称スル First of May Celebration Committee(以下 Hands off Russia Committee)ノ配付シタル小冊子ニ基キ今般(一)日本政府ニ對シ華府ニ於ケル宣言ノ履行ヲ求メ急速無条件ニ西比利亞ヨリ其軍隊ノ撤退ヲ求ムルコト(二)右ニ関シ日本政府ニ對ス

ル折衝方ヲ英國政府ニ求ムルコトノ二条項ヲ包含スル決議ヲ為シ来ル五月一日ヲ期シ「ハイド、パーク」ニ於テ一大示威運動ヲ試ミ十個ノ演壇ヲ設ケ該決議書八千部ヲ頒布スヘキ旨同委員会ヨリ来翰アリタルニ付御参考迄

六〇三 四月十七日 在浦潮松村總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

我軍西比利亞撤兵ニ際シ邦人ノ引揚及殘留ノ員數込報告ノ件

第一〇一號 (四月十八日接受)

貴電第八七號ニ関シ

当地憲兵隊ノ報告等モ斟酌取調ヘタルニ(一)居留民数四、五

四二人(二)多少永続的業務ヲ有スル土着居住者約一、五〇六

(三)軍隊ニ依リ生活ヲ當ミ撤兵ト同時ニ引揚ヲナス見込ノモ

ノ一〇六人ナルガ我軍隊全部ガ当地方ヨリ急速撤退スルモノトセバ其ノ事情ノ如何ニ依リ引揚民数ニ多少アル可ク即

大連會議ノ結果赤軍ヲ當地方面ニ引キ入ルト同時ニ我軍ノ撤退ヲナストキハ最近当地方露國官民一般ノ本邦人ニ対スル感情著シク悪化シ殊ニ漁業談判ノ破裂以来対日反感一層濃厚(大連會議ノ結果如何ニ依リ変化アルヘキハ勿論ナ

見込ヲ問合セタルモノナリ

六〇四 四月十七日 浦潮派遣軍參謀長ヨリ
陸軍次官宛(電報)

ガ右ハ我軍西比利亞ヨリ撤兵ニ際シ邦人引揚並殘留員数ノ

六〇四

七〇九

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六〇五

下部隊ニ指示ノ件

スル紐育新聞論調報告ノ件

七一〇

浦參謀二九五 (四月十八日外務省写接受)

大連會議斷絕後ニ於ケル軍ノ態度ニ就キ四月十七日軍隸下部隊ニ左ノ通指示ヲ与ヘラル

一、大連會議斷絕後ニ於ケル軍ノ態度ハ依然從来ノ通嚴正中立内政不干涉ノ方針ヲ持続シテ変ルコトナシ
二、大連會議ノ断絶ハ全ク国交断絶ト異ナリニ大連會議開催前ノ情態ニ復帰シタルモノナリ從テ知多政府及其ノ軍隊ニ対スル我軍ノ態度ハ他ノ政権ニ対スルト同シク從前通り治安交通ノ維持過激派行動ノ防遏及居留民保護ナル軍ノ任務ニ準拠シ苟モ其ノ任務ヲ阻害シ若クハ我軍ノ威敵ヲ犯シ我軍ニ危害ヲ与ヘ日露議定ニ違反シ其ノ他人道上看過スヘカラサル行動アル場合ニアラサレハ威力ヲ行使スルコトナシ

此ノ方針ハ既定当然ノ次第ナルモ此ノ際為念指示ス

東京、閨東、北京、天津、薩哈哩、哈市濟

六〇五 四月十九日 在紐育熊崎總領事ヨリ 内田外務大臣宛(電報) 日本ノ西比利亞派遣軍ノ交代兵派遣問題二閑

第九五号 (四月二十一日接受)
日本ノ西比利亞交代兵派遣及大連會議不調ニ関スル諸通信カ多少當地新聞ノ注意ヲ惹キツツアルモノノ如ク「ポスト」ハ日本ノ撤兵力無期延期トナリタリトスルモ日本ノ西比利亞占領カ事實上其根柢ヲ固クスヘキモノト信シ難キモ果シテ交代セル軍隊カ本国へ帰還スヘキヤ否ヤカ問題ナリ此際米國國務省ハ當然日本政府ニ対シテ其ノ真意ヲ質問スルト同時ニ大連會議ノ不調ニ終レル理由ノ説明ヲ求ム可キナリ此レ紊乱セル露國ノ道徳的保護者ヲ以テ任スル我政府ノ為シ得ヘキ所ニシテ打明ケタル情報ノ交換ハ寧ロ條約上ノ精神ニモ副ヒ且極東ノ平和ヲ維持スル所以ナリ云々ト論シ「タイムズ」ハ日本ハ既ニ西比利亞ニ充分ノ兵力ヲ有スルヲ以テ今回單ニ交代兵ヲ派遣スト云フ日本政府ノ説明ハ之ヲ信シテ然ルヘシ日本政府部内ノ勢力有ル部分ハ相当ノ条件ニテ者多政府トノ親交ヲ図ラムトスルモ今ヤ日本ノ帝國主義者カ再ヒ勢力ヲ得来リ而モ今回ハ陸軍ノ(不明)主張カ勝ヲ制セルモノノ如シ兎ニ角日本軍カ永ク西比利亞ニ駐屯スル丈近キ将来ニ一層ノ紛糾ヲ招クヘン云々ト云ヘリ

在米大使ヘ郵送セリ

六〇六 四月二十七日 在英國德川臨時代理大使宛(電報)

反日委員会配布ノ覺書ハ事実無根ノ捏造説ナルコトヲ同委員会乃至労働組合ニ説明スル様

訓令ノ件

第一六八号

貴電第一四七号ニ閲シ貴電第一四八号ノ覺書ナルモノハ大体「チタ」側ガ華府會議ノ際流布シタル宣伝ト同様ノモノニシテ左ノ通り事実無根ノ捏造説ニ外ナラサルニ付 Union 乃至 Committee 側ニ対シ可然説明ヲ与ヘ尚御見込ニヨリ其ノ内容ヲ新聞ニ發表スル等適宜措置アリ度シ

一、服役滿期トナレル部隊ヲ交代セシメタルコトアルモ全然増兵ノ事実ナシ大連會議不調ノ事情ハ往電合第一二四号ノ通リ其ノ責任「チタ」側ニアリ

二、全然事実ニアラズ日本ガ嚴正中立公明ノ態度ヲ持シ「メ」側ヲ援助シ居ラザル事実ハ同派ヨリ不満ノ声ニ微スルモ明カニシテ日露軍事取極ニ依リ所謂中立地帶内ニ於ケルハ党派ノ如何ヲ問ハズ一切武装團体ノ存在ヲ許シ居ラ

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六〇六 六〇七

六〇七 五月一日 在英國德川臨時代理大使ヨリ 内田外務大臣宛(電報)

メイ、テイ祝賀委員会ノ示威運動團ガ日本大

七一一

一八 「シベリア」に於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六〇八

七一

使館ニ來リ日本ノ西比利亞撤兵ヲ求ムル決議

書ヲ提出セル旨報告ノ件

(五月四日接受)

第一七七号

(註)

往電第一七三号ニ閲シ

五月一日「ハイド、パーク」ニ集合シタル約一万五千ノ労働團ノ内三四百名ハ予定ノ通午後五時半頃當館前ニ行列ヲ止メ十四名ノ代表員ヲ當館ニ派シ本官ニ會見ヲ求メタルモノテノ手配ニ依リ取次ノ者ノ為謝絶セラレタル処彼等ハ昂奮セル群集ノ氣勢ニ顧ミ何等暴行ヲモ企テ得マジキ旨ヲ述べ執拗ニ面会ヲ迫リタルガ之ヲ拒絶シタル為「前電撤兵要求ノ外一、日本ガ西比利亞駐兵ノ理由ナキコトヲ挙示シ二、齊多政府ノ軍隊並市民ガ日本軍隊又ハ浦潮白軍ノ為其生命財產ニ蒙リタル損害乃至右両軍隊争闘ノ為蒙ルベキ損害ニ対シ日本政府ハ其責ニ任ズベキコト從テ齊多政府ガ其損害賠償ヲ求メンタル場合ニ支援ヲ与ヘントスルモノナルコト」ヲ認メタル決議書ヲ當館ニ残シテ館外ニ立出デ群集ニ對シ面会ヲ拒絶セラレタル事実ハ之ヲ言ハズシテ(群集ノ激昂ヲ恐レタルモノト察セラル)只單ニ大使不在ノ為決議ヲ提出シ置キタルコト並大使ノ帰来ヲ待チ本件ニ閲

合第一四二号

宣詞

帝国政府ハ本年十月末迄ニ沿海州ヨリ全部撤兵スルコトニ決定セリ

居留民ノ保護ニ付テハ機宜ノ措置ヲ講ベシ

The Japanese Government have decided to withdraw all of the Japanese Troops from the Maritime Province of Siberia by the end of

October, 1922.

Suitable measures will be taken for the Protection of resident Japanese subjects.

六〇九 六月二十四日

内田外務大臣ヨリ
在米國佐分利代理大使
在浦潮永井政務部長代理宛(電報)

西比利亞撤兵ニ閲スル閣議及外交調査会決議

ノ件

合第一四四号(極秘)

沿海州撤兵ニ閲シ閣議及外交調査会ノ議ヲ經別電合第一四

五号ノ通り決定セリ

右貴官限リノ尙迄

一八 「シベリア」に於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六〇九

シ満足ナル回答ヲ得ル迄當館ニ赴クベキ旨ヲ告ゲ退散シタリ當日ハ四五十名ノ警官群集ノ前面ニ立チ塞ガリ警戒厳重ヲ極メタルガ屢々労働歌ヲ合唱シ不平ノ咄声ヲ洩シタル外比較的平穩裡ニ解散シタリ

二日ノ当地新聞ノ多數ハ本件ニ閲スル記事ヲ掲ゲタルガ就中二三ノ小新聞ハ小官ガ当日委員ニ會見ヲ与ヘ或ハ大使帰倫ノ後本件ニ閲シ何等回答ヲ為スベキ旨ヲ約シタルガ如キ記事ヲ掲ゲタルモノアルガ右ニ対シテハ新聞紙上ニ之ガ訂正ヲ試ムル積ナリ尚西比利亞撤兵要求ニ閲シテハ別ニ多數ノ労働組合ヨリ夫々同様ノ決議文ヲ送附シ來リ居レリ「ゼノア」ヘ転電ス

註 德川臨時代理大使ノ第二七三号(四月二十九日東京著)ヲ省略セルガ右ハメイ、ディ祝賀委員会ノ示威運動団ガ五月一日日本大使館ニ來リ日本ノ西比利亞撤兵要求ノ決議ヲ提出スルニ付満足ナル回答ヲ与ヘラレタキ旨同委員会ヨリ日本大使館ヘ中越シタル次第ヲ報告セルモノナリ

六〇八 六月二十四日 内田外務大臣ヨリ
各大使、各公使、各領事、
浦塙政務部長宛(電報)

十月末迄ニ西比利亞派遣軍撤兵ニ閲シ宣言ノ件

(在米大使)

本電別電ト共ニ在英大使ニ転電シ同大使ヨリ在欧各大使及和蘭、瑞典、波蘭ヘ転電セシメラレタシ

(浦潮)

總領事ヘ通報シ郡司近々貴地着ノ節同官へ伝ヘ且杉野ヘモ伝達セシメラレタシ

(別電)

六月二十一日閣議決定

合第一四五号 別電 極秘

(別添六月二十三日閣議決定全文)

大正十一年六月二十一日閣議決定

西伯利撤兵ハ之ヲ中外ノ形勢ニ顧ミ遷延シ難キ状況ニアリ殊ニ万一千外國ヨリ撤兵ヲ強要スルカ如キ提議ヲ見ルニ於テ

ハ帝国政府ノ立場ハ益々困難トナルノ外ナキニヨリ此際撤兵ニ議ヲ決シ遲クモ本年十月末日迄ニ沿海州ヨリ撤兵スヘキ旨速ニ之ヲ中外ニ宣明スルコト尚過般大連會議ニ断絶後

齊多ニ帰還中ナリシ「ダリタ」通信員「アントーノフ」ハ

本月十一日松平歐米局長ヲ來訪シ「齊多側ハ誠心誠意日本トノ交渉再開ヲ希望シ自分ハ右交渉ノ性質場所及時期ニ閲

シ日本側ト予備的交渉ヲ為スヘキ権限ヲ委任セラレタリ但シ交渉開始ニ先チ(ノ)勞農政府代表者ノ交渉參加(ノ)撤兵完了ノ時期明示ニ付日本側ノ承諾ヲ得タシ」トノ旨申出タル処右撤兵予定期日内ニ齊多側トノ交渉成立スルニ於テハ極メテ好都合ナルヲ以テ右「アントーノフ」ノ提議ニ対シテハ左記方針ニヨリ措置スルコト

一、前記撤兵期日ハ之ヲ「アントーノフ」ニ通告シ尚ホ齊多側ニシテ左記第二項所載ノ趣旨ニヨル我方提案ヲ八月十五日迄ニ調印スルニ於テハ浦潮ニ於テ我軍押収中ノ武器弾薬ハ我撤兵期日ニ支障ヲ生セシメサル限り之ヲ齊多側ニ引渡スヘシ

二、大連會議ニ於テハ基本協約ニ闕スル分ハ我提案第五条及第十条ヲ除キ全部齊多側ノ承諾スル所トナリ又其附属文書トシテ外国人私有財産權ヲ多数文明國ノ慣例ニヨリ保障スルコト黒龍江松花江航行權問題ニ付テハ後日協議スルコト漁業問題及尼港事件解決ヲ第一次交渉ニ移スコトニ就キ双方意見合致シタルニヨリ右意見相違セル分ノミニ付迅ニ之ヲ纏ムルコト

三、労農政府代表者ニ就テハ極東共和国カ労農露国ト特殊

六一〇 六月二十四日 欧米局長談話

日本ノ西比利亞撤兵ニ關シ松平歐米局長新聞

記者二談話ノ件

附 記一 六月七日附西比利亞撤兵ニ闕スル陸軍省案

二 六月三十日附沿海州各地日本居留民聯合大会

決議

西伯利撤兵ニ付テハ從來共成ルヘク速ニ之ヲ決行スルノ希望ヲ有シタルモ諸般ノ事情ニヨリ俄ニ之ヲ断行スルヲ得サ

リシハ遺憾トシタル所ナリ而シテ今猶東部西伯利ノ政情充分ニ安定セリトハ認メ難キモ露西亞全体ノ国情ニ就キ之ヲ見ルニ於テハ労農露国ニ於テモ恐怖政治ヲ撤廃スルト共ニ

共產主義的施設ニ変改ヲ加ヘ從來労農政府ヲ危険視シタル列國ノ態度モ漸次變化ヲ見ルニ至リ客年来歐羅巴諸國政府ト労農政府トノ間ニ數多ノ協約締結セラレ殊ニ最近ニ於テハ「ゼノア」ニ於テ米国以外ノ重要諸国ハ露西亞ヲ會議ニ招請シ交渉ヲ行ヒ又現ニ「ヘーブ」ニ於テモ之ト交渉ヲ為スヘキ権限ヲ委任セラレタリ但シ交渉開始ニ先チ(ノ)勞農政府代表者ノ交渉參加(ノ)撤兵完了ノ時期明示ニ付日本側ノ承諾ヲ得タシ」トノ旨申出タル処右撤兵予定期日内ニ齊多側トノ交渉成立スルニ於テハ極メテ好都合ナルヲ以テ右「アントーノフ」ノ提議ニ対シテハ左記方針ニヨリ措置スルコト

緊密ノ関係アルニヨリ我方ト齊多政府トノ間ニ協定成立スル場合ニハ莫斯科政府ヲシテ之ヲ承認セシメ置クヲ得策トシ之レカ為メニハ這回ノ交渉ニ之ヲ参加セシメ直ニ事態ヲ確定スルヲ便宜トスルノミナラス労農露国對列國近時ノ状勢ニ顧ミルモ之ヲ忌避スヘキ理由ニ乏シキヲ以テ右代表者ノ交渉參加ヲ許容スルコト

四、交渉ノ場所ニ就テハ齊多側ニシテ前頭第一次我方提案ヲ承諾スルニ於テハ調印迄多大ノ日子ヲ要セサルニヨリ之ヲ大連ニテ行フコトトス

五、交渉ノ時期ハ齊多側カ右我方ノ提案ヲ承諾シタル場合直ニ之ヲ開始スルコト

尚右交渉ノ成否ニ拘ラス居留民中引揚ケラ希望スルモノニシテ資力ナキ者ニ対シテハ相当ノ便宜ヲ与フルモ可成人心ノ動搖ヲ鎮压スルニ努ムルト共ニ居留民保護ノ任ニ当ラシムル為メ當分浦潮ニ軍艦ヲ碇泊セシムルコト將又薩哈哩占領軍中権太対岸ニ在ル軍隊ハ沿海州撤兵ト同時ニ之ヲ撤退スルコトシ右ニ就テハ撤退後ノ居留民保護等ニ付考究ヲ要スルモノアルニ付右等ノ詮議出来次第別ニ右撤兵ノ儀ヲ中外ニ宣明スルコトト致シタン

サムトスルノ状勢ニアリ即從來露国ヲ危険視シタル一般風

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六一〇

七一五

尚又居留民ノ安全ニ対シテハ機宜ノ措置ヲ講シ愆ナカラムコトニ努ムルヤ勿論ニシテ當分ノ間帝國軍艦ヲ浦潮ニ碇泊

セシムヘシ

(附記一)

六月七日附西比利亞撤兵ニ関スル陸軍省案

自主的撤兵実施ニ関スル方案

一、撤兵ノ実施ハ軍ノ企画ニ依リ行フモ撤兵行動ノ期間ハ努メテ之ヲ短縮ス我軍ノ撤兵行動ヲ妨害スルモノハ其党派ノ如何ヲ問ハス又党派ニ関係ヲ有スルモノト否トニ拘ラス一律ニ之ヲ排除ス

二、軍ハ撤兵行動開始前左ノ趣旨ノ声明ヲ為ス

1 政府ノ声明ニ基キ自主撤兵ヲ行フコト

2 我撤兵行動ヲ妨害スルモノハ其ノ何人タルヲ問ハス之ヲ排除ス

三、右声明ト共ニ政府ノ指示ニ基ク居留民（残留希望者ヲ除ク）ノ撤退ヲ実施ス

四、現浦潮政権ニ対シテハ内政不干涉ヲ主義トスルモ軍撤退時ニ於ケル浦潮附近ノ擾乱ヲ予防スル為我撤兵声明ト

同時ニ成ル可ク現浦潮政権以下白軍ニ自發的避難ヲ勧誘シ之カ避難ニハ相当ノ便宜ヲ与フ但シ避難地ハ我方ニ累

ヲ及ホササル地方ナルコト

五、押収軍需品ハ現在ノ儘我最後部隊ノ撤退ニ際シ浦潮自

治団ニ移管ス但シ該物件中小銃、機関銃及銃弾、爆弾等其不正使用カ内外人ニ危害ヲ及ホシ又ハ治安維持ニ有害ナリト認ムルモノハ軍ニ於テ適宜処理ス浦潮要塞ニ關シテハ軍ノ撤退ニ直接危害ヲ及ホスヘシト認ムル戦闘器材ノ要部ヲ除去スル程度ニ止ム

六、桃色党政権ヲ掌握スル場合ニ於テハ特別ニ処置スルコトナシ但シ避難ヲ希望スル亡命者ニ対シテハ要スレハ相当ノ便宜ヲ与フ

七、軍ノ撤退ニ伴ヒ鉄道守備ヲ撤シ之ヲ監督委員ニ通告ス

(附記二)

六月三十日附沿海州各地日本居留民聯合大会決議沿海州各地居留民ハ時局ニ鑑ミ大会ヲ開キ討議ノ末左ノ如ク決議ス

一、居留民保護ハ撤兵ニ前チ一片ノ空文ニ止ラズ實際ニ吾人ノ生命財産ガ確保サルル途ヲ徹底的ニ講ズルヲ要ス

ス

二、西伯利ニ於ケル帝國經濟地盤ノ喪失ヲ防ギ邦人ノ發展ニ資スルタメ速カニ經濟施設ヲ行フヲ急務トス

理由

曩ニ内地新聞ニヨリ無条件撤兵ガ西伯利居留民ノ希望ナルガ如ク伝ヘラルルヤ吾人ハ其ノ論議ガ為政者ノ方針ヲ誤リ内地輿論ノ帰屬ヲ害ヒ延イテ西伯利在留民ニ一大不幸ヲ来スベキヲ慮リ七月一日尼市ニ居留民大会ヲ開キ居留民ノ真意ヲ披瀝シ実情ヲ明カニシ以テ誤謬ヲ正サント企テタルガ突如六月二十四日帝國政府ノ撤兵声明トナリ其期ヲ逸セシハ千秋ノ恨事ナリトス

政府ハ居留民ノ保護ニ關シテ適當ナル措置ヲ採ルベキ旨声明セリ其ノ如何ナル措置ナルヤ未ダ遽カニ判ズベカラズト雖モ少クモ撤兵ニ前チ露国政府ト通商條約ヲ結ビ之レニ居留民ノ保護ヲ托スベキ準備アリト信ジ得ベシ

然レドモ之ヲ既往ニ照ラシ露国政府ガ将来或ハ一層悪化スベキ不安ナル政情ノ下ニ於テ良ク居留民ヲ保護シ得ルヤ否ヤ、當局ハ單ニ一片ノ條約文ニ倚頼スルガ如キ不安ナル間接保護トニ吾人ノ生命財産ヲ放棄スルコトナク過渡期ヲ経

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六一〇

大正十一年六月三十日

沿海州各地居留民聯合大会

尼市居留民代表

竹馬滝三郎（印）

西伯利居留民ハ當局ガ思ヲ此處ニ致シ前一条ノ決議ヲ容レ遲滞ナク実行スルコトヲ期待ス

ス

所アランヤ

西伯利居留民ハ當局ガ思ヲ此處ニ致シ前一条ノ決議ヲ容レ

遲滞ナク実行スルコトヲ期待ス

ス

七一七

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六一

七一八

安田 大逸（印）

スパスカヤ居留民代表

内藤 賴吉（印）

松原 翠（印）

田中 清爾（印）

内藤 九一（印）

江沢 辰美（印）

加登谷幸一郎（印）

福本巳之助（印）

西山 豊次（印）

大塚国太郎（印）

久間瀬豊三（印）

野村 健次（印）

ラズドリノエ居留民代表

若山祥太郎（印）

田中 清三（印）

小出 尚（印）

中島 滉爾（印）

安田 信（印）

関井 栄吉（印）

伴 良雄（印）

渡辺 炳吉（印）

吉賀 弥市（印）

スパスカヤ居留民代表

松本 源男（印）

春日泰一郎（印）

高木 与藏（印）

在中国小幡公使ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

中川 元彦（印）

向井駒三郎（印）

西尾 貞市（印）

二十五日「ホルワット」本使ヲ來訪シ自分ハ浦潮政府ノ首

高田三次郎（印）

長「メルクロフ」及 General Assembly ヨリ至急同地ニ

六一一 七月二十五日

在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

ホルワット浦潮行ニ付意見ヲ求メ尚日本ノ

西比利亜撤兵ニ付意見交換ノ件

第五三七号
（七月二十六日接受）
二十五日「ホルワット」本使ヲ來訪シ自分ハ浦潮政府ノ首

長「メルクロフ」及 General Assembly ヨリ至急同地ニ

来ル様熱心ナル勸誘ヲ受ケ居レルガ同政府ハ近々憲法ヲ制定シ其ヨリ執政數人ヲ選挙シ國政ヲ委ヌルコトトナルベシ

従来自分ハ日本側トノ諒解ヲ得テ常ニ行動シツツアルハ御承知ノ通ナルニ付自分ノ浦潮行ニ付テ何等御意見承知

シ度シト申出タルニ付本使ハ浦潮方面ノコトハ自分ノ干与スペキ限ニ非ザルノミナラズ自分ハ近時山東問題等ニ没頭

シテ同方面ノ政情ノ推移ニ注意シ居ラザルニ付本件ニ付何等適當ナル意見ヲ述ブルヲ得ザルモ日本ハ今回浦潮方面ヨリモ撤兵ノコトニ決定シ居ルノミナラズ我軍隊撤退前ト雖

日本軍ハ絶対ニ露國ノ内政等ニ干与スペカラザル旨ノ訓令

アル次第ナルガ故ニ同將軍ニ於テ日本軍ヨリ何等力後援ヲ

得ントノ望ヲ抱キ居ルガ如キコトアバ其ハ著シキ違算ナ

ルベキ旨ヲ答ヘタルニ「ホルワット」ハ過激派ノ天下モ最

早五年ヲ過ギ漸ク人心ノ嫌惡ヲ招クニ至リ反過激派ノ勢力

挽回ノ時期不遠到達スベキニ際シ日本ノ撤兵ハ時期ヲ得タ

ルモノニ非ザルヲ述ベタルニ付本官ハ西比利亜撤兵ハ現政

府既定ノ方針ニシテ曰ニ華府ニ於テモ其旨声明シ且國民一

般ノ熱心ナル希望ニモアリ旁々今更変更ノ余地ナク且日本

ハ右出兵ノ為曰ニ七億ノ國帑ヲ費シ此上経費ノ支出ヲ困難

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六二

公第三六六号 在哈爾賓 総領事 山内 四郎（印）
（八月十四日接受）

大正十一年八月五日

在哈爾賓 総領事 山内 四郎（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

日本ノ駐兵ニ基ク損害調査ニ関スル件

当地發行「ノーウオスト、ジーズニ」ノ知多來電トシテ報

スル所ニ拠レハ近ク開会セラルヘキ日本知多ソウエート露

國間ノ會議ヲ予想シ知多政府管内ニ於テハ日本ノ駐兵ヨリ

蒙レル損害額ヲ計上シ知多政府ニ提出シ始メタリ而シテ其損害額ハ黒龍江水路運輸部専門委員会ニ於テ作製シタルモ

損害額ハ黒龍江水路運輸部専門委員会ニ於テ作製シタルモ

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六一三

七二〇

ノノミニテモ千四百三十三万五千五十四金貨留ナリト云フ
右御参考迄ニ及報告候 敬具

六一三 九月十六日

内田外務大臣ヨリ
在長春松平代表宛（電報）

ニコライエフスク撤兵善後処置ニ関シ回転ノ件

第二〇号

（九月十七日接受）

貴電第一号（一）ニ関シ

陸軍省ヨリ薩哈哩派遣軍ニ打合ノ結果樺太対岸地方ニ於ケ
ル軍事事項ニ関スル協定案成^註リシカニ港方面ヨリハ本月二
十七日撤兵ヲ完了スル筈ナルヲ以テ右協定案中押収品受領
ノ露西亞側委員ハ本月二十日迄ニ尼港ニ到着スルヲ要スル
コトトナリ居リ事態右以上ノ延期ヲ許ササル次第ナル處此
際貴地ニ於テ基本協定締結前対岸軍事事項ニ関スル協定ノ
ミヲ取極ムルコトハ事情許ササルモノアリト思考セラル
ニ付押収品等ハ貴官携帶參考書類陸軍案ノ通ニ尼港市政委員
会等ニ引渡スノ外ナキモノト思考セラル尼港方面殘留者ノ
数ハ明ナラサルモ嶋田元太郎店員（島田ハ日下帰京中）モ
多分引揚クヘシトノコトナルヲ以テ殆ト殘留民ナキニ至ル

ヤニ察セラル尚陸軍側ニテハ日本軍ノ未タ撤退セサル地域
ニ於テハ露西亞軍隊及民警ノ存在ヲ許ササル方針ナルカ残
留民ノ保護ニ付テハ居留民側ト露西亞側トノ取極ノ次第モ
アリ差當リ右ニ依ルノ外ナカルヘシ

註 陸軍省軍務局軍事課ヨリ外務省歐米局第一課ニ提示セラレ

タル樺太対岸地方ニ於ケル軍事事項ニ関スル協定案左ノ通

協約締結ニ際シ両國政府ハ樺太対岸地方ニ於ケル軍

事事項ニ関シ左ノ通り協定ス

第一条 日本軍カ樺太対岸地方ニ架設セル電線ハ無

償ニテ極東共和国政府ニ讓渡スヘシ

第二条 日本軍カ樺太対岸地方ニ於テ押収セル物件
ハ日本軍ノ撤去期日ニ支障ナキ限り尼港ニ於テ極

東共和国ニ引渡スモノトス

但シ其ノ授受ハ簡々ノ物件ニ付行フコトナク総括
的ニ実施セラレ且極東共和国ノ押収物件受領委員
会ハ九月二十日迄ニ尼港ニ到着スルモノトス此期限
内ニ到着セサル場合ニ於テハ日本軍憲ハ押収物件
授受ノ責ニ任セサルモノトス

第三条 日本軍ニ於テ尼港ニ建設セシ無線電信所ハ

日本側ニ於テ管理シ日本官憲及日本居留民ノ通信
ニ使用シ露國側ノ通信ヲモ取扱フモノトス

交渉ニ際シ注意事項

一、日本軍ノ未タ撤去セサル地域ニハ露國側ノ軍隊
及民警ノ存在ヲ許サス

二、押収物件受領委員ノ数ハ受領ノ為ノ最小限トス
(六名ニテ足レリ)

六一四 九月十六日 在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛

極東共和国管内ニ於ケル最近ノ軍事狀況報告

ノ件

公第四七二号 (九月二十五日接受)

大正十一年九月十六日

在哈爾賓

總領事 山内 四郎 (印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

一、国民革命軍軍事會議ノ命令

知多政府最高軍事機関タル国民革命軍軍事會議ハ極東共

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六一四

和国国民革命軍並ニ海軍ニ左ノ如キ命令ヲ發セリ
沿海州ニ白衛軍出現セルヲ以テ全兵員ハ極東共和国ヲ白
軍ノ奪略破壞ヨリ免レシムル為一大決戦ヲ為スノ覺悟ナ
カルベカラズ云々 (九月十六日「ノーラオスチ、ジーズ
ニ」)

二、赤軍東漸

過般來知多満洲里間ノ「オロワンナヤ」駅ニ駐屯セシ軍
隊ノ大部分ハ漸次東方ニ向^ツテ出発シ又勞農露國ヨリ輸
送シ来リ第一知多附近ニ駐屯セシ騎兵六百名モ亦全部
「ハバロフスク」方面へ向^ツケ輸送セラレタリト云フ (知
多帰客談)

三、東部戰線狀況

極東共和国軍隊ハ前進シテ「スペスカヤ」ノ後方ニアル
「ヤコウレススク」及「ラザレウスク」村ヲ占領セリ
興凱湖方面ニ於テハ赤軍「イリインスカヤ」村「デエウ
イツヤ」村ヲ占領シ「スペスカヤ」ヲ威嚇セルヲ以テ
「カツペリ」軍ハ「スペスカヤ」方面ヨリ退却シツツアリ
而シテ「モルチヤノフ」將軍ノ司令部ハ「ニコリスク」
市ニ引揚ヶ同所ヨリ全軍ヲ指揮スベシ (九月十七日「ノ

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六一五

七二二

一ウオスチ、ジーズニ)

四、赤軍ノ尼港進入

「ハバロフスク」ヨリ極東共和国政府ヘノ電報ニ拵ルニ
在哈府官憲ハ日本軍撤退後無責任ナル「バルチザン」ノ
占領ヲ避クル為極東共和国軍隊ニテ保護セラレタシトノ
在「ニコラエウスク」日本在留民ノ請願ニ基キ守備隊ヲ汽
船數隻並ニ曳船ニテ同地ニ派遣シタリ（九月十七日「ノ
ーウオスチ、ジーズニ」）

右御参考迄ニ及報告候 敬具

六一五 九月二十一日 在浦潮堀政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

「ボルディリヨフ」將軍ノ浦潮政局観及浦潮

労働界ノ重鎮「バトウリン」ノ語レル日本ノ

撤兵ニ関スル浦潮労働界ノ意向ニ付報告ノ件

第一七五号 （九月二十一日接受）
往電第一七三号ニ関シ渡辺ガ「ボルディリヨフ」將軍（本
年六月ノ未遂政変ノ張本人ノ一人）ノ意見ヲ叩キタルニ
「ボ」ハ略前電中間派ト同様ノ説ヲ為シ自分が曩ニ浦潮齊多
間ノ妥協私案ヲ抱キテ北京哈爾賓方面ニ赴キ小幡公使其他

ルヤニアリ云々

労働者「ロザノフ」時代ニ当地労働組合長タリ客年歐露ニ
往復シテ現時陰ニ当地労働界ノ重鎮タル「バトウリン」

（社会革命党極左派）ガ渡辺ニ語ル所モ大体前電第三項溫和

派ト同様ニシテ當地労働者一般ハ浦潮政權ノ態度並ニ日本

軍ノ存在ニ鑑ミ近來輕率ノ無意義有害ナルヲ知リ来リタル

ト内実地方農民ト等シク政争ニ倦ミ寧ロ麵包ヲ得ルコトニ
急ナルニ依リ復辟主義ノ現政權ニハ反対ニシテ歐露トノ統

爾今撤兵ニ依リ両国民ノ諒解親善ヲ得吾人ノ渴望セル經濟
的ノ支援ヲ与ヘラレントヲ切望シテ止マズ云々

六一六 九月二十五日 在浦潮堀政務部長ヨリ
渡辺領事ニ對シ對過激派戰ノ成功ニハ日本側

ノ援助ヲ必要トスル旨「オコロコフ」談話ノ

件

第一八五号 （九月二十六日接受）

前「ホルワット」閣員次イデ「コルチヤック」政府商工大
臣タリ最近二年横浜ニ在住今次ノ「ニコリスク」大会ニ參
加シタル「オコロコフ」渡辺ヲ來訪自分ハ夙ニ日露ノ提携
同盟論者ナルガ最近「ジトリックス」一派ガ排日的態度ヲ
示シ居ルハ甚ダ面白カラザルヲ以テ此程尼市大会及浦潮ニ
於ケル非社会党員集会席上ニ於テ大ニ親日主義ノ要ヲ演説
シ同志ノ同感ヲ博シ演説筆記ヲ「ジ」ノ閲覽ニ供シ置キタ
ルガ効果如何ハ未詳ナルモ吾人ノ団体ヲ後援トセル彼ハ多
分態度ヲ改ムラナラムト考へ今後モ滯在中ハ引続キ本運動
ヲ為ス積リナリト述ベタルニ対シ渡辺ハ私談トシテ「ジ」
ガ主權者兼外相ノ地位ニ於テ為セル最近ノ言動ハ穩當ヲ缺
ニシテ兵士其モノ又ハ日本國民ニ対シタルニ非ザルヲ以テ
リ撤兵延期ノ為故意ニ事端ヲ釀スコト無キヤニ在リ吾人ガ
白軍ヨリ転職シタル約二千斗リノ労働團ガ白党ノ煽動ニ依
リ当地ノ動乱ヲ起スコトナシ吾人ガ今日懸念ニ堪ヘザルハ
モ愈々断行セラルコトナリタルヲ以テ此際折角ノ撤兵
ヲ障害スルガ如キ行動ニハ出デズ生來ノ労働者約七千ハ無
事ニ日本軍ノ引揚ゲムコトヲ祈リ居ルニ付撤兵前労働者ヨ
リ久シク排日の態度ニ出デタルハ貴國ノ武力干涉ニ依ルモノ
ニシテ兵士其モノ又ハ日本國民ニ対シタルニ非ザルヲ以テ

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六一六

七二三

在支日露有力者ニモ會見シ同情ト贊意ヲ得テ帰来国民議会
ノ自覺ヲ促シ居タルモ六月政變ガ我極東武斷派ノ為失敗ニ
終ラサレ（政變ニ際スル我軍ノ態度ハ概シテ公正ナリシヲ
「ボ」ハ語レリ）遂ニ「メ」以上ノ反動派ニ狂奔シタルヲ
以テ同志ト共ニ一時政界ヲ去リ形勢傍観ノ已ム無キニ至レ
リ右党側ガ吾人ト団結シテ議會ノ力ニ依リ齊多側ト妥協セ
シナラバ激變ヲ見ズシテ幾分當州特殊ノ状態ヲ保チ得タル
ナラムモ現状ニテ「ジ」一派ガ齊多ニ圧倒セラレタル後ノ
当地ハ一時反動的ニ窮境ニ陥ル可キモ當地方ニハ列國ノ利
害關係モ有リ且ハ莫斯科最近ノ態度ニ鑑ミルニ全然從前ノ
「ソビエット」式施政ヲ為ストモ思ハレズ日本軍ノ撤退前後
ニ於ケル當地治安ニ關シテハ撤兵前迄ニハ日本ノ外英、米
諸國軍艦モ在泊ス可ク露人一般ハ現政權ニ反対ナルモ流血
ヲ欲セザルヲ以テ長春會議ノ成行ヲ待テル赤軍ハ固ヨリ消
極的ノ反政府派側ヨリ積極的行動ヲ挑マザル可ク從ツテ撤
兵前ニ當地ニ政變又ハ戰鬪行為ヲ見ルガ如キ事無カル可シ
寧ロ此際懸念ニ思ハルハ日本ノ撤兵延期ヲ余儀無クセン
ムル目的ヲ以テ極東一派ガ何等暴挙ヲ企テザルヤト逃途ヲ
失ヒタル白軍中ノ蛮勇団ガ流込ミテ死物狂ノ蛮行ヲ為サザ

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六一七

七二四

ケルノミナラズ徒ラニ民心ヲ惑乱シ日露ノ関係ヲ悪化シ結局露国側ノ為ニ不利ヲ招クニ至ル可シトテ「ヲ」ノ意図ニ賛意ヲ表シ次イデ「ヲ」ノ時局觀及往電第一七〇号ノ真相如何ヲ夫レトナク聞キタルニ「ヲ」ハ最近白党側ノ優勢ト将来ノ有望ナルヲ吹聴シ居タルモ遂ニハ内話トシテ実ハ吾人ノ現運動成功スルヤ否ヤハ吾人ノ覺悟ト結果ノ如何及主トシテ日本側ノ好意的援助殊ニ長春會議決裂ノ曉吾人ニ対シ如何ナル態度ニ出デラルルヤニ依リ決セラル可シ即チ現白軍ハ相當優勢ナルモ仮令赤軍トノ戦闘ニ一時勝ヲ制スルトモ軍資金無クンバ到底持続困難ナル可キニ依リ吾人ガ期待スル如ク長春會議不成立ノ場合ハ日本方直ニ吾人ト会商シテ押収物件ヲ「ジ」ノ支配下ニ移サレ地方統治及経済施設ニモ援助ヲ与ヘラルレバ対過激派戦ハ成功スベキニ由リ長春會議中ノ目下之ヲ望ミ難キモ右ノ場合ニハ援助ヲ願ヒタシ若シ不幸ニシテ時局ガ斯ク展開セザル内ニ赤白ノ一戦後者ノ不利ヲ見ンカ白側ハ朝鮮又ハ満洲ニ逃げ落チザルベカラズ然ルニ朝鮮ヘハ行軍困難ナルヲ以テ斯ル場合ヲ顧慮シテ「ジ」ハ内々張作霖トノ間ニ白軍ノ東支線落チヲ策セル次第ナリ張宗昌ノ来浦ニ闕シテハ自分ハ「ニコライ、メ

ルクーロフ」ヨリ張ガ当地押収物件一切ヲ三千五百万留ニテ買入ノ為來レル由ヲ聞キタルモ張作霖等カスル巨額ノ支払能力ナキヲ信ズ尤モ張「ジ」ノ提携ニ闕シテハ張ト特別關係ニアル日本當局ノ了解アルヤニ聞キ及ベリ然ルニ一方自分ハ實ノ處長春會議不成立ヲ予想シ當地押収物件ノ内五百萬円丈買賣ニ関シ東京出發前三菱其他の合ム「シンヂケート」ト当政權ニ相談シタルニ応諾アリタルヲ以テ二十三日電報ニテ「シンジケート」代表者ノ渡來方督促シ明日日ニモ返電ヲ待チ居ル次第ナルガ本運動ニ関シテハ「シンジケート」ハ日本當局ノ了解ヲ得居ル由ナレバ吾人ハ局面ノ展開ト共ニ日本ノ援助ニ依リ当方面ヨリ反過激運動ノ功ヲ奏シ先づ政治的ニ地方ノ秩序ヲ固メ次ニ日露ノ經濟關係ヲ密接ナラシメ両國ノ有無供給ヲ日露同盟ノ域ニ達セシメタシ云々ト語リ居タリ御参考迄

六一七 十月八日 在浦潮堀政務部長ヨリ

内田外務大臣宛（電報）
浦潮潛伏ノ赤軍側代表二名方渡辺領事ニ赤軍

優勢ノ状況ヲ説明シ日本側ノ態度ヲ問質ノ件

第一三九号

（十月八日接受）

機密軍政送第三六号赤側代表二名再ビ会見ヲ求メタルニ依リ十月七日夜渡辺ハ之ニ応ジタルガ其際渡辺ノ間ニ対シ先方ハ得意ノ口調ヲ以テ赤側ガ最近西方ヨリノ先頭部隊來援ニヨリ一層ノ氣勢ヲ揚ゲ此程來対白軍南下行動ヲ開始シ十月六日「スーザギー」ヲ占領シタル為同地ハ南部トノ交通杜絶シ白側ハ「スペスク」附近ノ敗戦ノ結果十月五日同地撤退ヲ開始シ約二百車輛ヲ「ニコリスク」方面ニ後送シ一方応援ノ為「ニコリスク」ヨリ来ル白側第二梯団ノ内一ハ七月六日途中鉄道破壊ノ為五車輛顛覆シテ死傷者ヲ出シ前進ヲ妨ゲラタル等戰況白側ニ不利ナルニ乘じ赤側ハ着着南下ノ計画ヲ進メ今後遲クトモ二三週間（或ハ其以前）ニ「ニコリスク」ヲ占領スル積リナリト他方「シコトワ」方面ニアル白軍數千ニ对抗シ得ル「パルチザン」ハ其以前ニ於ケル「ウゴリナヤ」「ラズドリヌイ」方面ヲ突破シテ浦潮ヲ孤立ノ地位ニ陥レント努力中ナリ然ルニ一方白側ニ在リテハ殆ド狂的ナル「ジ」一派ノ極少數者及「セ、カ」軍殘徒ノ蛮勇団ヲ除ク外軍隊トシテモ戰意ナク民警ノ如キ過半ハ孰レニデモ動クベキ性質ヲ有シ地方農民及市民ニ至リテハ予テ内亂ヨリモ畜多ニ共鳴的傾向ヲ有シタルニ最近

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六一七

七二五

「ジ」ガ極端ナル徵兵徵稅等ノ暴政ヲ振ヘルニ対シ益々不满反抗ノ氣勢ヲ高メ其結果ハ現ニ市民ヨリ赤側ニ投ゼントスルモノ数百ニ達セルモ我方トシテハ彼等ヲ迎フルノ危険ナルト且其準備ナキヲ以テ折角辛抱スベク説得中ナル有様ニシテ「パルチザン」及當市労働者モ頻リニ焦リ居ルモ日本軍ノ在浦中ニ出動セバ大局上不利ナルヲ以テ之ヲ抑制中ナリ云々ト赤側ノ優勢ヲ吹聴シ（割引判断スベキハ論ナシ）タル後稍躊躇ノ態度ニテ事態前陳ノ通ニ付日本軍ノ撤退前ニモ或ハ自然的ニ當地方ニ政變ヲ見ルニ至ルヤモ知レザルガ此ノ場合ニ対シ軍ハ如何ナル態度ニ出デラルルヤ又現状ノ儘ニテ日本軍撤退サレ其ノ撤退ノ際押収武器ヲ噂ノ如ク市自治團等白側ニ交付セラルニ於テハ一時的ニ白側ノ極小部分ガ命脈ヲ延バシ為ニ平定上自分等ノ欲セザル幾分ノ犠牲ヲ生ズルニ至ルヤモ測リ難キニ付此ノ虞ヲ予防センニハ現形勢ヲ引用シテ日本軍ノ駐屯中ニ昨年五月政變當時ヨリ一層輕微ナル動搖位即一定ノ場所ニ於テ數十発位ノ銃火ヲ軍ニ於テ見逃サルルコトセバ當市ハ殆ド流血ノ慘ラ見ズシテ昨年政變以前ノ狀態ニ復シ日本軍ノ撤退モ安全ニ居留貴国人其他一般住民モ恙ナク常業ニ從事シ得万事好都

一八 「ジベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六一八

七二六

合ナリト思考スル處貴見如何ト問出タリ渡辺ハ右ニ對シ赤側軍情及其ノ他ノ形勢ガ果シテ貴説ノ通ナルヤ否ヤハ暫ク別問題トシ當地方ニ於ケル政變ガ全然武力ニ依ラズシテ大勢上自然ニ生ズル場合ニ對シ軍ガ別ニ反対スベキ理由ナキハ從来ノ通ト考ヘラルル處理論ハ理論トシ若シ日本軍ノ撤退前ニ當市ニ赤旗ヲ見ルガ如キコトアラバ遺憾ナガラ軍隊從来ノ行懸上甚ダ好マシカラザル事態ヲ惹起スルノ恐アルノミナラズ況ソヤ其ノ駐屯中苟クモ一発タリトモ銃火アル政争ノ行ハレンカ軍ハ已ムナク武解ヲ断行スルニ至ル可クスクリテハ撤兵ニモ故障ヲ來タスペク双方ニ取り最モ好マシカラザル事態ヲ招来スベキニ依リ此点ハ充分勘考セラルベシ尤モ貴方ニ於テ果シテ全然流血ノ惨ヲ見ズシテ平定スベキ具体的妙案アラバ参考迄ニ提示サルベシト答ヘタルニ先方ハ今ヤ陸上ニ於テハ略無事ニ數時間ニシテ全部我方ニ帰スベキ見込ナルモ海上ニ於ケル艦艇「ウリス」「バイカル」「デオシツド」「ペリス」及驅逐艇ガ日露軍事協定ニ反シ各三門宛ノ砲(七十五「ミリ」及百十二「ミリ」砲)ヲ有スルハ當市平定上ノ故障ノナリ云々ト答ヘタルニ依リ渡辺ハ露艦艇ノ昨年ノ武解後薬弾砲ヲ有シ居ルトハ思ハ

レザルモ若シ事実トスレバ相当ノ理由ニ依リ之ヲ許シ居ルベケレバ今日之ヲ直ニ取上グルガ如キハ現状上困難ナルベク貴説ノ如キハ單ニ断片的架空的ノ談ニテハ能ク解ラザルニ依リ宜シク平和的善後策ヲ講ゼラルベシト答ヘタルニ先方ハ具体案ヲ有スルニ依リ軍ニ於テ主義上之ヲ傾聴セラルナラバ直接軍當局者ニ会シ提示スベキニ依リ比旨伝ヘラ間敷ヤト要望シタルニ依リ渡辺ハ予テ嚴正中立ヲ恪守シ來レル軍ニ對シ同主義ヲ奉ゼル予トシテ現重大期ニ於テ何等人為的計画ニ関シ之ヲ伝フルハ困難ナルヲ以テ予ハ先づ同僚ト貴意ニ関シ協議ヲ試ムベシ結果ハ次回ノ會見ニ答ベキモ多分予ガ同夕語リタル所ト同シカルベキニ付予メ右様了知アリタシト答ヘタルニ先方モ之ヲ諒トスル旨語レリト

註 九月二十八日浦潮派遣軍団政務部長發内田外務大臣宛機密軍政送第三六号ヲ省略セリ右ハ政務部員渡辺領事ガ浦潮ニ潜伏シ秘密運動ニ從事セル赤側代表者二名ト其ノ求ニ応ジシ九月二十五日夜會談シタル狀況ヲ報告セルモノナリ

六一八 十月九日 内田外務大臣ヨリ
在米國佐分利臨時代理大使、
内田外務大臣宛(在中国小幡公使及在浦潮堀政務部長各宛)(電報)

在浦潮日本軍押収武器處理問題二付日本ノ撤

ノ件

合第三一九号

十月六日英國大使本大臣ヲ來訪在浦潮日本軍押収武器ハ赤白何レノ手ニ帰スルモ土地ノ治安ヲ害シ延テ世界一般平和ニ危険ヲ及ホス虞アルニ付日本政府ニ對シ該武器ニ関シ切實ニ意見交換ヲ為スヘキ旨本国政府ヨリ訓令ヲ受ケタリト前提シ右武器カ滿洲又ハ近東方面ニ輸送セラル危険ヲ指摘シ此ノ際其ノ散逸ヲ防ク為日本軍ノ一部ヲ浦潮ニ暫ク残留セシメ得サルヘキヤ右ニ關シテハ英國政府ニ於テハ何等異存ナク米國政府ニ於テモ異議ナカルヘシト述ヘタルニ付

本大臣ハ撤兵期日延期ハ今日迄政府ノ為セル声明ニ顧ミ又對露政策上絶対ニ承諾スル能ハス但シ武器散逸ノ危険ニ付テハ同感ナルヲ以テ之カ防止方法ヲ發見スルニ折角焦慮中ナルカ右武器ハ我軍撤退ノ際之ヲ地方自治團体ニ引渡スヘキ意図ヲ既ニ發表セル行懸リアリ事態頗ル切迫セルノミナラス本件武器ハ主トシテ日英米ヨリ供給セルモノニシテ日本ノ分ハ既ニ内地ニ送還シ其他ハ日本政府ニ於テ処分權ヲ

一八 「ジベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六一九

六一九 十月九日 在浦潮堀政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

赤軍ノ浦潮入市ノ場合ニ備ヘ日本軍撤退延期

ノ件

(十月十日接受)

北東両方面ノ形勢切迫ニ伴ヒ自然白軍ノ敗殘兵及之ニ追尾シ來ルベキ赤軍ノ浦潮入市ニ際シ軍ハ一律ニ武装解除勵行ノ方針ニテ其ノ場合出来得ル限りノ兵力ヲ保持スル必要上軍ノ輸送計画一部ニ変更ヲ來シ十二日以降逐次帰還スベキ

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六二〇

六二一 六二二

七二八

部隊ハ孰レモ出発ヲ延期シ二十五日ノ最終梯団ト合シテ出
発スルコトナリ最終梯団ノ出発ハ目下ノ処延期ナキ見
込ナルモ形勢ニ依リ月末迄延期スル無キヲ保セズ

六二〇 十月十三日 閣議決定

浦潮方面在住朝鮮人ノ引揚ニ対スル援助ニ関
スル件

浦潮方面ニ在住スル朝鮮人ニシテ日本軍撤退前引揚ケムト
スル者約壹万五千人ニ及フ処帝国政府ハ之ニ対シ内地日本
人ト同様ノ取扱ヒヲナシ無資力者ニ対シテハ送還ノ便宜ヲ
与フヘキハ理論上正当ナル如ク見ユルモ此等朝鮮人中ニハ
毎年ノ例タル出稼ニ赴キ怡モ帰鮮ノ時期ニ際会セルモノ鮮
カラサルト共ニ露領ニ土着セル朝鮮人ニ対スル露國官憲ノ
態度ハ日本人ニ対スルト甚タ異リ殆ト露国人ト同一視シ居
ル次第ナルヲ以テ政情ノ変化ニ基ク朝鮮人ノ危険ハ甚タ微
小ナルヘキ実情ナルヲ以テ帝国政府トシテハ此等鮮人ノ引
揚ケラ援助スル必要ヲ認メス依テ右引揚ケ希望者ニ対シテ
ハ船舶ノ提供又ハ旅費ノ貸与ヲ為ササルコトニ致度

六二一 十月十五日 在浦潮堀政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

其下相談ニ松村總領事ヲ招請ノ件

第二七〇号

(十月十六日接受)

部員渡辺、川角等カ保持シ居ル赤側代表者トノ接觸ハ時局
ノ切迫ト共ニ先方ノ事情謀知ト當方ノ意(脱)上ニ於テ便
宜鮮カラサル次第ナルカ軍側ニ於テモ今後赤軍ト接觸スル
ノ必要ヲ生シ近ク連絡員派遣ノ筈ナリ又英國領事ハ米國領
事ト打合セノ上自身及米國領事館ノ代表者ト今明日中ニ赤
軍司令部ニ赴キ赤軍入市後ノ秩序維持方ニ関シ了解ヲ遂ケ
ムトシ其ノ下相談ニ昨日松村總領事ヲ請引シタルモ總領事
ハ政府ノ訓令ナキ由ヲ以テ相談ニ与ルコトヲ躊躇シ居ル模
様ニ付本官ハ一方總領事ニハ兎ニ角右相談ニ加ハルコトノ
必要ヲ勧説スルト同時ニ英國領事ヘハ本官一個ノ觀察トシ
テ赤軍ノ入市ハ左程急ニハ實現ス間敷旨話シ置ケリ将来撤
兵後ノ武器問題及秩序維持問題ニ關シ現ニ海軍ヲ派シ居ル
日、英、米(将来或ハ支那モ然ラム)間ニ種々協議ノ必要
起ルヘキニ付往電第二六五号(註)ノ件御決定ノ方針如何ニ不拘
斯ル協議ニ参加スル方可然ト(脱?)ノ上右ニ関シ必要ナル
訓令ヲ總領事ニ發セラレテハ如何カト思考ス

註 十月十四日堀政務部長堀電報第二六五号ヲ省略セリ右ハ我
訓令ヲ總領事ニ發セラレテハ如何カト思考ス

ジトリックス將軍ニコリスクヨリ撤退シ防衛
線ヲ南下セシメシ情勢ニ付報告ノ件
(十月十五日接受)

六二六号

軍側ノ情報ニ依レハ「ジトリックス」ハ遂ニ「ニコリス
ク」ヲ維持スル能ハス昨夜十一時頃司令部ヲ「ラズドリノ
エ」ニ移スコトニ決心シ今朝頃實行ニ著手シタル筈ナリ今
後ノ計画ニ付テハ軍ヲ浦潮ニ還スコトハ民心ノ感情等ニ顧
慮シテ之ヲ避ケ浦潮半島ノ防備ハ「スタルク」ニ浦潮ニ於
ケル陸軍總司令官ノ職ヲ与ヘ主トシテ其ノ率ユル現在民警
ヲ以テ之ニ充ツルコトトシ其他軍ノ主力ハ二分シ一ハ「モ
ルチャノフ」ノ統率ノ下ニ南部烏蘇里一帶ニ他ハ「スマ
リン」ノ統率ノ下ニ東支鐵道ノ南部ニ配置シ右兩部隊ヲ以
テ鐵道線ノ北部及東部ヨリ浦潮へ進出セントスル赤軍ヲ側
面ヨリ脅威牽制セントスルニアルカ如シ

右ハ発表見合セラレタシ
曩ニ請求ノ電信料未着ニ付至急電送アリタシ

六二二 十月十六日 在浦潮堀政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)
在浦潮英米領事ハ赤軍司令部ト連絡セントシ

軍ノ押収物件引渡後ニ張作霖ニ転交セラルルコトヲ防グ方
法ニ関シ意見ヲ稟申セルモノナリ

六二三 十月十六日 在浦潮堀政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

ジトリックス將軍赤軍ノ襲来ニ備ヘ浦潮ノ婦
女等ノ保護方ニ付英米領事館ニ相談ノ件

第二八〇号

(十月十七日接受)

「ジトリックス」將軍ハ十月十五日密ニ浦潮ニ帰來後翌十
六日ニ至リ同將軍ハ目下ノ時局ニ鑑ミ浦潮ヲ國際管理ノ下
ニ置カムカ為領事團會議ニ出席陳情スヘシトカ或ハ米國領
事館ニ避難シ反日ノ氣勢ヲ揚ケツツアリトノ風評アリタル
モ本官カ英米領事ニ就キ確メタル所ニ依レハ同將軍ハ赤軍
ノ襲来ニ対シ当地婦女小兒及白軍負傷者ノ保護ヲ英米両國
軍艦ニ依嘱シタキ希望ヲ以テ右両國領事館ニ相談シタルニ
過キサルモノノ如シ其際英米領事立会ノ上「ジトリックス」
ニ面会シタル疑モアレト未タ確ムルヲ得サルカ右相談ニ対
スル回答振ニ付テハ両領事會商ノ上之ヲ為スヘキハ疑ヲ容
レス

註 十月十四日堀政務部長堀電報第二六五号ヲ省略セリ右ハ我
訓令ヲ總領事ニ發セラレテハ如何カト思考ス

七二九

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六二四

六二四 十月十七日 在浦潮堀政務部長ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

浦潮市会ハ市ノ秩序維持ヲ各國領事團ニ依頼

スルコトヲ決定シ各國領事ニ陳情ノ手筈ナル

旨報告ノ件

第二八八号 (十月十七日接受)

数日來当地市会ハ時局問題ニ付特ニ數回会合討議ヲ重ねツ

ツアル模様ナル處十月十七日押収武器交付内協議（往電第

二八六号）ノ席上当地市長代理ガ語リタル所ニ依レバ十月

十六日ノ市会ニ於テ中央派ハ今日ノ場合市ノ秩序ハ之ヲ各

國領事ニ依頼スルノ外ナシト主張シ之ニ対シテ左党側ハ第

一、從来ノ情報委員会ヲ廢止スルコト第二、新ニ行政委員

会ヲ組織スルコト第三、政權ヲ市ニ譲渡スル様執政官ニ交

渉スルコト第四、市ノ騒乱予防ノ為赤軍司令部ト予メ交渉

ヲ開始スルコト第五、市内各団体代表者ヨリ成ル保安委員

会ヲ組織スルコトノ五案ヲ提出シタルガ總票五十二票ノ処

右五案何レモ十票前後ノ差ニテ敗レ前記中央派ノ領事團ト

接觸聯絡ヲ保ツベシトノ主張ハ十五対三十七ニテ可決セラ

レシニ依リ右決議ニ基キ從来ノ情報委員会委員（市長主席）

ヲ其ノ儘ニ對領事宛交渉委員ニ挙ゲ各領事ヲ歴訪陳情シテ

六二五

二十日迄ニ何等カノ協定ヲ遂グル手筈ナル趣ナリ

尚他ノ情報ニ依レバ「ジトリックス」執政官ハ自己ノ發意

ニ依リ二十日迄ニハ自ラ政權ヲ市ニ譲渡スベキ意向ナリト

云フ

註 十月十七日堀政務部長堀内田外務大臣宛電報第二八六号省

略セリ右ハ我軍ノ押収物件ヲ浦潮市自治團へ引渡方ニ付軍

ガ浦潮市長代理ト協議ノ模様ヲ報告セルモノナリ

六二五 十月十八日 内田外務大臣ヨリ

在浦潮松村總領事宛（電報）

赤軍浦潮入市後ノ秩序維持及居留民保護ニ付

英米領事等ト連絡ヲ保チ赤軍側代表者ノ了解

ヲ遂ゲ置ク様訓令ノ件

第二二二号（註）

往電第二一八号ニ関シ

浦潮政權ノ運命既ニ定マリ近ク赤軍浦潮入市ヲ見ルニ至ル

ヘキ處此際赤側代表者ト接觸ノ上赤軍入市後ノ秩序維持及

居留民保護ニ付了解ヲ遂ケ置クヲ機宜ノ措置ト思料スル

ニ付貴官ハ英米領事等ト連絡ヲ保チ之等問題ニ付万遗漏無

キ様努メラレ度シ

第二二二号

往電第二一八号ニ關シ

浦潮政權ノ運命既ニ定マリ近ク赤軍浦潮入市ヲ見ルニ至ル

ヘキ處此際赤側代表者ト接觸ノ上赤軍入市後ノ秩序維持及

居留民保護ニ付了解ヲ遂ケ置クヲ機宜ノ措置ト思料スル

ニ付貴官ハ英米領事等ト連絡ヲ保チ之等問題ニ付万遗漏無

キ様努メラレ度シ

註 本電報欄外ニ「第二一八号ハ領事會議ニ出席セヨトノ訓令

ナリ」ト記載アリ右ニ閑シテハ十月十六日堀政務部長発外

務大臣宛第二七〇号ノ末尾参照

六二六 十月十八日

在浦潮堀政務部長ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

赤軍ハ日本軍ニ一戦ヲ挑ムヘシトノ情報ニ鑑

ミ先方ノ態度ヲ確認スル措置ヲ執ル様軍司令

官ヨリ依頼アリタル件

（十月十九日接受）

軍側ニ伝ハル情報ハ頻々トシテ赤軍ハ勝敗ヲ度外視シテ

本軍ニ一戦ヲ挑ムヘシトテ必要ナル命令ヲ各隊ニ伝ヘタリ

トアリ右ハ一応白党側ノ為ニスル宣伝ト想像セラルモ軍

司令官ハ大ニ憂慮セラレ万一事実トセハ日本軍ハ応戦スヘ

キハ勿論ニテ斯クテハ日露開戦ノ端緒トナルヘキニ付出来

得ル限り斯カル事端ノ發生ヲ防止シタク就テハ松平欧米局

長ヨリ個人的ニ「ヤンソン」又ハ「ヨツフエ」宛赤軍司令

官ハ當方ノ意向ヲ伝ヘラレ出來得ヘクハ先方ノ態度ヲモ承

知シタキ旨電報セラル様本官ニ対シ仲介方依頼アリタル

ニ付可然御取計ノ上結果電報ヲ請フ尚同時ニ司令官ヨリ渡

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六二六

六二七

六二七 十月二十一日

内田外務大臣ヨリ

在浦潮堀政務部長宛（電報）

齊多代表オザルニンニ対シ齊多軍ト日本軍ト

ノ衝突ヲ避クル様申入方山内總領事ニ訓令ノ

件

別電 同日内田外務大臣発在浦潮堀政務部長宛電報第

六八号

同日内田外務大臣発在哈爾賓山内總領事宛電報第

第一七九号全文電送ノ件

第六七号

貴電第二九五号ニ閑シ目下ノ状況ニ於テ松平ヨリ「ヨツフエ」又ハ「ヤンソン」ニ御申越ノ如キ次第ヲ傳フルハ面白カラザルニ付別電第六八号ノ通り山内總領事ヨリ重ネテ

七三一

七三〇

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六二八

「オザルニン」ニ警告ヲ發セシメタリ

(別電)

十月二十日内田外務大臣發在哈爾賓山内總領事宛電報第六八号

同日内田外務大臣發在哈爾賓山内總領事宛電報第一七九号全文電送ノ件

十月二十日内田外務大臣發在哈爾賓山内總領事宛電報

第一七九号

至急「オザルニン」ニ対シ左ノ趣申入レラレタシ

「浦潮方面ノ形勢急轉シ白軍ニシテ同市方面ニ逃避スルモノ多キニヨリ我軍ハ此等ニ対シ嚴重武装解除ヲ行ヒ同市ノ秩序ヲ維持シ以テ既定ノ期日内ニ撤兵ヲ了セムコトニ努メツツアリ然ルニ一方齊多軍ハ既ニ「オケヤンスカヤ」ニ入りタル趣ニテ本月十九日我第一線ニ齊多軍軍使來着シ露軍ノ露國領土内進行ニ対シ日本軍ハ如何ナル權能ヲ以テ阻止スル次第ナリヤトノ質問ヲ提起シタル由ナルガ若シ齊多軍ニシテ如斯焦慮ノ結果我軍トノ了解ナク強テ浦潮ニ進入セムトスレバ必ズ日本軍トノ間ニ衝突ヲ見ルベク此ノ如キ狀態ヲ生ズレバ我方撤兵ノ時期遲延スルノ止ムヲ得ザルニ至ルヤモ計リ難クスカテハ日露間ニ更ニ重大ナル事態ヲ惹起ス

七三一

ルコトナルベキニヨリ齊多側當局ヨリ出先赤軍ニ対シ十分ノ注意ヲ加ヘ日本軍トノ間ニ行違ヲ生ゼシメザル様措置セラレムコトヲ希望ス

六二八 十月二十日 閣議決定

浦潮派遣軍押収軍需品ノ処置並浦潮現政権要

人及其家族ノ避難ニ便宜供与ニ関スル件

押収軍需品ノ引渡ニ就テハ之ヲ地方自治団ニ移管スルコトニ八月二十二日閣議ニ於テ決定セル處最近ノ報道ニヨレハ浦潮市会ハ之レカ移管ニ応セサルノミナラス同市治安ノ維持ハ之ヲ領事團ニ委附スル旨決議シタル趣ナルカ若シ同地ニ於テ現市会ニ代ルヘキ權力團体（赤白ノ色彩ヲ問ハス）出現スルニ於テハ押収軍需品ハ之ニ引渡スコトシ差支ナキモ我最後梯団ノ撤退ニ際シ押収軍需品ノ引渡ヲ受諾スルモノナキ場合ニハ右ハ現状ノ儘残置スルコト致度又浦潮現政権側ノモノニシテ現下ノ事態ニ顧ミ避難ヲ希望スルモノアル趣ナルカ右ノ内有力者及其家族ニシテハ我權力範囲外ノ適當ナル地方ヘノ避難方ニ付人道上ノ見地ヨリ応分ノ便宜（費用ハ一切彼等ノ負担トス）ヲ与フルコトト致度

認ム

右ハ目下ノ状況ニヨリ赤軍カ浦潮所在ノ武器彈薬ヲ白党ニヨリ搬出セラルルコトヲ防カムトスルニ焦慮シ強テ我守備線内ニ軍隊ヲ進メムトスル企図ヨリ生スル重大ナル状態ヲ避クル上ニ於テ効力アル方法ト思ハルモ目下ノ如キ切迫

セル状態ニ於テハ貴方ニ於ケル事態ノ変化ニヨリ貴方ノ裁量ニヨリ決スルヨリ外ナシト思考スルニ付右ノ処置ハ大体ノ方針ヲ示スモノト心得ラレ他ハ軍憲ト熟議ノ上貴官ノ裁量ニヨリ適宜ノ処置ヲ取ラル様致度シ

註1 十月十八日堀政務部長發内田外務大臣宛第二九〇号及第

二九一号ヲ省略セリ右第二九〇号ハ浦潮市会ガ浦潮派遣

軍押収物件ノ引取ヲ拒絶セルコトヲ報告セルモノニシテ

第二九一号ハ右引取拒絶ニ付領事團會議ノ協議ノ模様ヲ報告セルモノナリ

如何ナル團体モ押収品ノ引渡ヲ受ケザル場合ニハ我方ハ之ヲ遺棄シ引揚クルノ外ナキハ勿論ナルモ保管者トシテノ責任及公安維持ノ見地上何者カニ之ヲ引渡スコトヲ適當トスル處貴電第二九四号冒頭所載公共保安委員會ハ好都合ナルベキノミナラズ此際此種權力團体ノ設立セラルル場合ニハメテ好都合ナリト認ムニヨリ英米領事トモ連繫ヲ保持シ以テ労働者側ヲモ網羅セル保安委員會ノ成立ヲ見ル様事態ヲ誘導スルコト然ル可ク尙前頃貴電第二九〇号市会ニ於ケル決議末尾ノ通リ浦潮市カ保安安全ニ対スル責任負担ヲ拒絶シタル以上市所屬民警ハ武装セシメ置ク必要ナキ次第ナルニヨリ必要ノ場合ニハ此レガ武装ヲ解除シ保安委員會ニ所屬スペキ民警ニ必要ナル武器ヲ供給スルモ一方法ナリト

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六二九

七三三

2 十月十八日堀政務部長發内田外務大臣宛第二九四号ヲ省略セリ右ハ浦潮商工業界代表者ガ市会ニ対シ公共保安委員會ヲ設置シ一時政權ヲ之ニ譲リ赤軍側ノ入市後之ヲ同赤軍側ニ渡スベキヲ提議セルコト及其他浦潮方面ノ労働界ノ動キ等ヲ報告セルモノナリ

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六三〇

七三四

六三〇 十月二十日

内田外務大臣ヨリ
在浦潮堀政務部長宛（電報）

浦潮派遺軍ノ押収軍需品ノ処置等ニ関スル閣議決定並閣議席上日本軍ト赤軍トノ衝突回避策

策ニ関スル陸海軍大臣トノ協定通報ノ件

別電 同日内田外務大臣発堀政務部長宛第七一號

右陸海軍大臣トノ協定ニ関スル件

第七〇号

十月二十日左ノ通閣議決定セリ尚押収軍需品引渡ニ付テハ

更ニ往電第七一號ノ通陸海軍大臣ト協議済ニ付右御承知アリタシ

押収軍需品ノ引渡ニ就テハ之ヲ地方自治団ニ移管スルコトニ八月二十二日閣議ニ於テ決定セル處最近ノ報道ニヨレハ

浦潮市会ハ之ヲ移管ニ応セサルノミナラス同市治安ノ維持ハ之ヲ領事團ニ委附スル旨決議シタル趣ナルカ若シ同地ニ於テ現市会ニ代ルヘキ権力団体（赤白ノ色彩ヲ問ハス）

出現スルニ於テハ押収軍需品ハ之ニ引渡スコトトシ差支ナキモ我最後梯隊ノ撤退ニ際シ押収軍需品ノ引渡ヲ受諾スルモノナキ場合ニハ右ハ現状ノ儘残置スルコト致度

又浦潮現政權側ノモノニシテ現下ノ事態ニ顧ミ避難ヲ希望

置セラレタジ

六三一 十月二十日 在ハルビン山内總領事ヨリ 内田外務大臣宛

赤軍占領後ニ於ケル「ニコリストク、ウスリー

スキ」市ノ状勢ニ関スル件

公第五五〇号

（十月二十六日接受）

大正十一年十月二十日

在哈爾賓 總領事 山内 四郎（印）

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

当地及「ニコリストク、ウスリー」市間ニ於ケル通信機

関未タ復旧スルニ至ラサルヲ以テ確実ナル報道ニ接スルヲ得サルモ当地発刊左党派露紙ノ報道ヲ綜合スルニ赤衛軍ノ

「ニコリストク、ウスリー」市占領後即チ十月十六日ニハ全市全ク平静ニ帰シ白軍ニ属スル前市衛戌司令官「スミルノフ」大佐ハ赤軍ノ手ニ捕縛セラレ一時間ヲ経テ射殺セラレ又前市長「トログ」氏ハ浦潮ニ向ケ逃亡セリ停車場ハ何等被害ナキモ一輛ノ客車タモ残存シ居ラス

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六三一

六三一

スルモノアル趣ナルカ右ノ内有力者及其家族ニ対シテハ我権力範囲外ノ適当ナル地方ヘノ避難方ニ付人道上ノ見地ヨリ応分ノ便宜（費用ハ一切彼等ノ負担トス）ヲ与フルコトト致度

右往電第七一號ト共ニ總領事ヘ伝ヘラレタシ

別電

十月二十日内田外務大臣堀在浦潮堀政務部長宛電報第七一號

日本軍ト赤軍トノ衝突回避策ニ関スル陸海軍大臣トノ協定ニ

関スル件

第七一號 至急

目下ノ状態ニ於テ我軍ト赤軍トノ衝突ヲ見ルニ於テハ極メテ重大ナル結果ヲ惹起シ遂ニ收拾スルコト能ハサル事態ニ陥ルヘキニヨリ此際出来得ル限り妥協ノ方法ヲ講スル必要アリ就テハ赤軍側ニシテ武器引渡ヲ希望スル關係上強テ浦潮入市ヲ希望スルニ於テハ日本軍ニ対シ挑戦的行動ニ出ツルコトナク且市ノ秩序ヲ紊ササル条件ノ下ニ押収武器受領ニ必要ナル兵數ノ入市ヲ許スコトニ二十日閣議ノ席上陸海軍大臣ト協議済ニテ陸海軍司令部ニモ夫レ夫レ訓令アル筈ナルニ付貴官ハ軍憲ト連繫ヲ保チ前記ノ趣旨ヲ以テ可然措

全市占領後同市ヘ「コミツサル、ホスツイセフ」ヲ長トセル沿海州西部戰線ニ於ケル司令部員來着シ極東共和国代表員トシテ仮ニ行政事務ヲ執リツツアリ

今次ノ交戦ニ依リ市街又左程ノ損害ヲ蒙リ居ラス各商店及小舗ハ既ニ從前通営業ヲ継続シ居レリ右営業継続方ニ就テハ赤軍入市後市役所ヨリ特別ノ布告ヲ發布スル所アリタリ尚同市及「ボグラニーチナヤ」間モ又全ク平静ニ帰シ鉄道線路ノ破損モ僅少ナルヲ以テ復旧工事ノ完成遠カラサルヘク目下「ニコリストク、ウスリー」市ヨリ工夫ヲ派シ工事ヲ急キツツアリ又「ボグラニーチナヤ」間電信連絡ハ明日中ニ復旧スヘシトノ事ニ有之候

右及報告候 敬具

六三二 十月二十一日 在蒲潮堀政務部長ヨリ 内田外務大臣宛（電報）

浦潮ニ公共保安委員会設置ノ提議ニ関シ提議

者「ジャチコフ」ノ談話報告ノ件

第三二二號

（十月二十二日接受）

往電第二九四號前段當市公共保安委員会急設ノ件ニ關シ 渡辺ガ右提議者ノ一人タル「チューリン」商會支配人「ジ

七三五

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六三二

七三六

ヤチコフ」ヨリ聽取リ大要左之通

從来政治ニ無関心ナリシ当地方実業界モ「ジトリックス」一派ノ無謀ナル内乱運動ノ結果最近当市ガ飢餓ニ瀕シタル組織シ齊多軍入市ニ際スル慘害ヲ輕減セント苦慮中此程当地労働者ヲ中心トスル各職業組合ヨリ本運動ニ關シ申込アリ遂ニ十七日ノ市会ニ對シ提議シタルニ多數ノ贊助ヲ博シ得タルモ無責任ナル外來政治「ゴロ」タル現市會議員ノ過半ハ已ニ逃走ノ準備ヲナシナガラ主トシテ現存「スタルク」派以下ノ海軍力ヲ頼ミ能フ限リ居残リテ虛勢ヲ張リタル為一頓挫ヲ來シタルガ然モ現市会ハ昨年政變後革命的ニ右党ガ乘取リタルモノニシテ市民全体ヲ代表セザルヲ以テ吾人ハ此際不本意ナガラ現存市会州「ゼムストウォ」自治庁（不明）団等各階級職業代表者ヲ網羅セル公共團体（恰モ「アントーノフ」時代ノ状態ニ復シ）ニ依リ一時市ノ秩序ヲ維持セントスルモノナルモ日本軍ノ後援乃至諒解ヲ得ザレバ殆ド瓦解セル如キ市民警ノ現状及白軍一部殊ニ（不明）ナル「スタルク」ノ有スル海軍暴力アル以上目的ヲ達スルコト不可能ナリ現ニ「スタルク」ハ國立銀行ニ對シ官

二十日發照政務部長宛第六九号末尾ノ註2参照

赤衛軍司令官日本軍ト戦火ヲ交フベカラザル旨部下へ命令ノ件

第三五六号（別電）

（十月二十二日接受）

六三三 十月二十一日

在ハルビン山内総領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

様才ザルニシニ申入ノ件

別電 同日在哈爾賓山内総領事發内田外務大臣宛電報

第三五六号 赤衛軍司令官日本軍ト戦火ヲ交フベカラザル旨

部下へ命令ノ件

（十月二十一日接受）

第三五五号

貴電第一七九号ニ関シ

十月二十一日「オザルニン」ヲ往訪御電訓ノ趣旨ヲ伝ヘ且右ヲ覚書トシテ交付セルニ「オ」ハ別電第三五六号ノ通赤衛軍司令官ヨリ發表アリ且既ニ浦潮領事団ト赤衛軍司令官ト交渉ノ結果赤衛派民警ヲシテ日本軍司令官ノ同意ヲ経テ浦潮ノ警備ニ当ラシメ居ル以上何等彼我衝突ノ事ナシト信スルモ鬼ニ角本官申入ノ趣ハ齊多政府ニ電報スヘキ旨答ヘタリ

ノ警備ニ當ラシメ居ル以上何等彼我衝突ノ事ナシト信スルモ鬼ニ角本官申入ノ趣ハ齊多政府ニ電報スヘキ旨答ヘタリ

（別電）

五六号 十月二十一日在哈爾賓山内総領事發内田外務大臣宛電報第三

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六三三

六三四

抗議ノ件

六三四 十月二十一日

チチエリン外務委員及ヤンソン外務大臣ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

日本ノ撤兵遲延及白色暴徒ノ掠奪破壞ニ對シ

七三七

金ハ元ヨリ「アントーノフ」時代ニサヘ手ヲ触レザリシ歐露ヨリ移送セル内外個人ノ預ケ居ル貴金属迄モ引渡ヲ命シ多数艦船ニ財貨ヲ積ミテ一味ノモノト共ニ逃走セントシツツアリ若シ「ジトリックス」ガ二十日当地ヲ去ルモ「ス」ガ

残留セル以上公安維持ハ不可能ナリ斯カル殆ド無政府狀態ヲ救フモノハ日本軍ニアルノミ「サゾノフ」等西比利亜州独立党一派ハ十七日市ノ會議ニ於テ白西下運動ニ対シ（不明）二十四個銀行等後援ヲ与フルニ依リ政權ヲ彼等ニ譲渡スペキ旨提議シタルモ時機ニアラザルヲ以テ殆ド傾聴セラレザリシ吾人ノ本計画ニ対シ英國領事ハ贊意ヲ表シ米領事ハ寧ロ赤軍入市ヲ適當トスル意見ノ由吾人ハ此際如何ニモシテ此危機ヲ切抜ケントシ今夕再協議スル筈ナルモ日本軍ノ態度吾人ニ有利ニ傾カザル限り本計画ヲ實現スルコト困難ナラン斯クテ當市民ハ一方「スタルク」一派ノ暴政ト他方赤側入市後ノ毒手ニ罹ルノ虞アリ非常ニ不安ノ思ラナシツツ殆ド為ス所ヲ知ラズ云々ト歎息シツツ渡辺ニ軍側ノ意見ヲ聞キタルニ依リ渡辺ハ略赤側代表者ニナシ來レル態度ニテ適宜應諾シ置キタル由

註 堀政務部長ノ第二九四号ニ就イテハ前掲内田外務大臣十月

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六三四

七三八

十月二十一日附内田外務大臣宛農露国外務委員チエ
リン及極東共和国外務大臣ヤンソン発抗議電報（チタ発
十月二十四日東京着同日）

和訳文

日本帝国政府ハ遅クモ本年十一月一日露國領土ヨリ撤兵ヲ
終了スルノ意図ヲ正式ニ確言セル在哈爾賓極東共和国全權
代表宛七月十九日附「ノート」ニ基キ現ニ撤兵ヲ実行シツ
ツアリテ目下ノ處日本軍ハ大陸ニ於テ浦潮及其ノ附近ノ小
地域ヲ占領シ居ルニ過キス國民革命軍ハ今ヤ前記ノ地域ヲ
除ク全沿海州ヲ占領シ浦潮ニ入ラントシツツアリ「オケア
ンスカヤ」駅ニ在ル國民革命軍司令部ハ浦市及其ノ平和ノ
住民（外国人ヲ含ム）ヲシテ武力ニヨル同市ノ奪取カ誘致
スルコトアルヘキ不詳ノ結果ヲ免レシメンカ為流血ヲ見ル
コトナクシテ同市ヲ占領ゼンコトヲ希望シ同市ノ露國軍司
令部ニ引渡スコトニ関シ日本軍司令部ト交渉セリ然ルニ不
幸ニシテ日本派遣軍司令部ハ此ノ提議ヲ容レ浦潮ヲ両國側
ニ引渡ス時日及方法ニ關シ國民革命軍司令官ト協定ヲ遂ク
ルコトナク却テ軍事行動ノ威嚇ノ下ニ國民革命軍ノ撤退ヲ
要求シ且正規ノ手続ニヨリ同市ヲ露國側ニ引渡ス為ノ協約
締結ヲ峻拒セリ極東共和国及露西亞社會主義聯邦「ソヴィ
エト」

保護スル為陸戰隊ヲ上陸セシムルニ至レリ極東共和国軍司
令官ハ平和ノ住民ニ対シ又外国人ニ対シテハ英米領事ノ請
求ニ基キ其ノ生命財産ノ安全ヲ保障セリ此ノ約束ハ依然有
効ナリ、然レトモ露西亞社會主義「ソヴィエト」共和国及
極東共和国政府ハ日本軍司令官ノ行動ニヨリテ浦潮市ニ形
成セラレタル完全ナル無秩序ノ形勢ハ同市ニ於ケル秩序及
靜謐ノ復旧ヲ甚シク困難ナラシムモノナルコトニ関シ日
本国政府ノ注意ヲ喚起スルモノナリ
露西亞社會主義聯邦「ソヴィエト」共和国及極東共和国政
府ハ前記ノ期間ニ行ハレタル暴行並掠奪ノ事實ヨリ露國ノ
利益ニ加ヘラレタル損害ニ対スル全責任ハ之ヲ撤兵ノ方法
ヲ設定シ得ヘカリシ日本帝国政府ニ帰セサルヲ得ス

六三五 十月二十三日

在浦潮堀政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

下ノ態度及浦潮ノ秩序維持ノ状況報告ノ件

第三二九号

（十月二十三日接受）

貴電第七一号二十二日夜接到右閣議決定ノ大要趣旨ハ陸海
軍直電ニ依リ仄聞シ居リタル次第ナルカ本官ハ之ニ先チ大

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六三五

エト」共和国政府ハ第一浦潮市カ日本軍司令部ノ不注意ニ
依リ其ノ保護ノ下ニアルニ拘ラス掠奪及破壊ニ委セラレタ
ルニ鑑ミ撤兵遲延セルコト並露軍ノ浦潮入市ヲ許可セサリ
シコトニ対シ最モ強硬ニ抗議セサルヲ得ス此等ノ行為ヲ行

フ白色暴徒ハ浦潮ヨリ掠奪セル露國ノ財產ヲ搬出シ且平和
ノ住民ニ甚シキ暴行ヲ加ヘツツアリ浦潮ヨリ接到セル最近
ノ報道ニ依レハ白色暴徒ハ日本將卒ノ保護ヲ受ケ且之ト共
同シテ倉庫貯蔵所ヲ掠メ其ノ掠奪品ハ或ハ之ヲ外國諸港ニ
集メ或ハ之ヲ満洲ニ輸送シ同地ニ於テ極東共和国反対ノ新
武装團ヲ組織セントス白色暴徒ハ露國軍艦及商船ヲ把握シ
既ニ其ノ一部ヲ外國諸港ニ送レリ暴行ニ反対セラ労働者及
武裝團ヲ組織セントス白色暴徒ハ露國軍艦及商船ヲ把握シ
ニヨリテ破壞セラレ又ハ使用不能ノ状態ニアリ右爆發ノ結果
ノ爆發ニ付テ軍事行動ノ威嚇ノ下ニ國民革命軍ノ撤退ヲ
要求シ且正規ノ手続ニヨリ同市ヲ露國側ニ引渡ス為ノ協約
締結ヲ峻拒セリ極東共和国及露西亞社會主義聯邦「ソヴィ
エト」

体閣議ノ精神ト同一ノ趣旨ニ依リ「十日夜司令官參謀長大
竹少將等同席ノ際赤軍トノ融和ヲ圖ル為赤民警ノ入市ヲ許
スト同時ニ一万ノ場合我兵力不足ヲ感スルナラハ海軍ノ
増援ヲ請ハル様進言シタルカ時恰モ參謀長ノ赤側トノ会
見ニ依リ一応赤側ニ於テ進出セサルヘキヲ誓ヒタルモ未タ
其成否不明ニシテ前日ノ緊張氣分去ラサル際ニテ顧ミラレ
ス其後モ閣議方針ノ電報接到セルモ軍ハ専ラ安全撤退ノ見
地ヨリ赤軍又ハ赤民警ノ入市ヲ認メサル態度ヲ一貫シ各方
面ノ計画此方針ニ基キテ策立セラレタル故ニ撤兵期逼迫セ
ル今日軍ヲシテ採用セシムルコト困難ナリ
而シテ今後憂慮スヘキ問題ハ撤兵前後ヨリ赤軍入市迄ノ秩
序ニ関スルモノナルカ目下通信杜絶ノ外隨時隨所ニ秩序ヲ
無視セル現象（中ニハ虛構ノ流説モアリ）發生セサルニア
ラサルモ市民生活ニ対スル脅威ノ程度ハ未タサシタル程度
ニ達シタリト認メラレス且ツ今明日中ニ「スタルク」一派
及「セメノフ」殘党「グレボフ、レドフ」軍ニシテ退去セ
ハ赤側ノ民警（情報ニ依レハ既ニ私服ノ儘部署ニ就ケリト
伝ヘラル）ハ機ヲ見テ市ノ警察権ヲ掌握シ日本育多両軍交
代ノ時期ニモ大ナル混乱ヲ生セシムルコトナクシテ已ムヘ

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六三六

六三七 六三八

七四〇

シト観測ス

六三六 十月二十四日 在浦潮埠政務部長ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

赤軍ノ浦潮入市ノ時期ニ閑シ浦潮派遣軍參謀

長ト赤軍委員ト会商協定ノ件

(十月二十七日接受)

十月二十三日赤軍ヨリ我軍ニ対シ協議希望ノ申込アリタルニ対シ二十四日軍參謀長ハ赤軍「コンミッサール」ト「セダンカ」ニ於テ午前ヨリ午后ニ亘り会商

最初先方ハ直ニ赤軍ヲ浦潮ニ入レ我軍ノ各部署ト交代センコトヲ主張シタルモ我方ハ我歩哨ニ対シ最近統々射擊スル者アルタメ部隊ノ心理状態ハ直ニ赤軍ト交代セシムルノ甚ダ危険ニシテ大局上之ヲ許サザル理由ヲ説明シタルニ先方モ之ヲ諒トシ結局二十五日正午ニハ赤軍ハ「セダンカ」ノ橋梁ヲ通過シ午後四時浦潮ニ進入スルヲ許スコトト(我軍ハ昼迄ニ乗船ヲ了ヘ)シ協定ノ形ニ於テ記録調印シ極メテ平和的氣分ニテ交渉ヲ了ヘタリ

押収物件ハ同時ニ二十五日午前九時鍵ヲ赤軍ニ交付ノコトニ協定セリ

浦参一六六

(十月二十七日外務省写接受)

狀況報告

軍諸隊ハ本二十五日正午無事乗船ヲ了リ午後二時其最後船ヲ以テ浦潮埠頭ヲ離レ夫々帰還ノ途ニ着ケリ本職ハ台北丸ニ在リテ同時浦潮湾口ヲ出帆ス二十八日宇品ニ入港ノ予定ナリ軍ハ最近数日來ノ状況ニ鑑ミ深ク最後撤去ノ難境ヲ苦慮シアリシカ幸ニシテ容易ニ能ク皇軍ノ威信ヲ保チ内外在留民ヲシテ甚タシク不安ノ裡ニ陷ルコトナク平穩無事悠然撤去ヲ完了シ得タルコトヲ特ニ報告ス

本朝來天曇リ露金角湾ヲ籠メ秋氣殊ニ深ク感慨軒々切ナリ

六三八 十月二十五日 在ハルビン山内總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

齊多軍ト日本軍トノ衝突ヲ避ケル様ノ我方申入

二対シ極東共和国外相ヤンソンヨリ内田外相宛

回答ノ件

別電 同日山内總領事発内田外務大臣宛電報第三六〇号
右ヤンソン外相ヨリ内田外相宛回答
第三五九号

(十月二十六日接受)

往電第三五五号ニ関シ

十月二十五日「オザルニン」本官ヲ來訪シ貴電第一七九号ニ対スル回答トシテ別電第三六〇号ノ如キ閣下宛「ヤンソン」外相「ノート」及別電第三六一號ノ如キ葉ノ「ノート」ヲ本官ニ手交シ閣下ヘ通達方ヲ申出タリ (終)

註 別電第三六一号ニ付テハ後掲十月二十七日山内總領事発内

田外務大臣宛第三六一号参照

(別電)

十月二十五日在哈爾賓山内總領事発内田外務大臣宛電報第三

六〇号

極東共和国外相ヤンソンヨリ内田外相宛回答

第三六〇号別電
(十月二十六日接受)

極東共和国ハ十月二十一日在哈爾賓齐多代表ニ手交セラレタル覚書即チ日本政府ハ國民革命軍ガ予メ日本軍司令官ト諒解ナク浦潮ニ進出スルヲ不可トセラル趣ノ覚書ヲ接到シ奇怪ノ觀アリ然レドモ露國領土内ヲ露軍ガ通過スル權利

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六三八

七四一

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六三九

リ国民革命軍ハ日本軍ニ対シテ殊ニ輕拳妄動ヲ慎ミ紀律ヲ
厳守シ居レバ日本政府ヨリ我軍ガ紀律ヲ棄ル等ノ実例ヲ指

摘セラル筈ナカルベシ故ニ日本軍側ヨリモ我軍ニ対シ同様
ノ尊敬ヲ以テ臨マルニ於テハ一切ノ衝突ハ現出スルコト
ナシトモ信ズ以上ノ理由ニ由リ日本軍ハ沿海州ヨリ撤兵ヲ
延期スルノ余儀ナキニ立至ルベシト謂フ日本政府ノ威嚇ノ
真意那辺ニ在ルヤハ全然了解ニ苦シム所ナリ ヤンソン

原文郵送ス

六三九 十月二十五日 在浦潮松村總領事ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

二十五日日本軍浦潮撤退、赤軍入市、本邦人
婦女等万一人危険ニ備ヘ避難船ニ避難ノ件

第三四〇号 (十月二十六日接受)

十月二十五日午前十一時皇軍全部乗船午後二時出帆同四時
一聯隊長ノ率フル騎兵斥候入市同五時半騎兵約一個中隊ヲ
先頭ニ赤軍歩、砲兵約二個聯隊市民ノ歎呼裡ニ入市シ市中
警戒ノ任ニ就キ同時ニ数日来同盟罷業中ナリシ(脱)セラ
レ市中平穏ナリ尚民会ノ希望ト海軍側ノ勧告ニ依リ万一人
危険ヲ避ケム為本邦人婦女小兒百八十余名ヲ一時避難船豈

又往復文書ノ形式等ニ就キテモ先方ノ要望アル際ハ「メル
クーロフ」政權ニ対セシト同様先方ノ官名ヲ附シ差支ナキ
ヤ本官心得迄何分ノ儀御電訓ヲ請フ

六四一 十月二十六日 在浦潮政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

二十五日午後二時日本軍浦潮出帆及同日午後

三時半赤軍入市ノ状況報告ノ件
(十月二十七日接受)

第三五〇号
軍司令部ヲ搭載セル台北丸ハ我が日進艦ノ登舷礼ヲ受ケテ
午前十一時埠頭ヲ離レ一旦港内ニ仮泊シ部下諸隊ノ乗船出
帆スルヲ見届ケタル上総數十二隻舳艤相衡ンデ午後二時出
帆セリ爾來赤旗戸々ニ翻リ街衢ハ赤軍ヲ迎フル群集ニ満チ
罷工モ午後三時頃ニハ終熄シ三時半ニハ前駆ノ赤軍騎兵三
五入市シテ市民ノ歎呼ヲ浴ビ居レリ(二十五日午後三時半)

六四二 十月二十六日 在浦潮政務部長ヨリ
内田外務大臣宛(電報)

赤軍浦潮入市及市民歓迎ノ状況報告ノ件
(十月二十七日接受)

第三五五号
往電第三五〇号ニ関シ其ノ後赤軍歩騎兵砲兵各部隊(兵數

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六四一

六四〇

前丸ニ避難セシメツツアルモ秩序回復ノ見込付クト同時ニ
夫々上陸帰還セシムル筈

チタ軍入市以来秩序ヲ回復シツツアル浦潮ノ

状況報告及講訓ノ件

第三四二号 (十月二十六日接受)

往電第三四〇号ニ関シ

十月二十五日午後赤多軍入市以来市ノ秩序ハ着々恢復既
ノ直話ニ依レバ赤軍總指揮官及諸文官ハ十月二十六日入浦

ト同時ニ市會議員ノ召集ヲ命ジ追ッテ地方會議召集ノ順序
トナル予定ニテ其他行政諸機関ノ組織赤多政府トノ聯絡關係等ニ就テハ本日入市スペキ「コミッサル」ニ於テ覈査決
定スベキ答ナル趣ノ處赤多側当地方長官ノ當館ニ対スル態
度ハ追々分明スペキモ差当リ居留民關係ニ就キ先方ニ対ス
ル當館事務上ノ交渉等ハ前「アントーノフ」乃至「メル
クーロフ」政權時ニ於ケル態度ト同様ニ出デ然ルベキヤ將

未詳ナルモ我カ海軍側ハ約四千ト云ヘリ) 及政權側各代表
幹部諸員ハ自動車ニテ統々入市シ隨所ニ勞農歌ノ高唱起り
当市区役所前ニ於テ市会側共産党及労働団代表者等ノ熱誠
ナル歎迎辞ヲ受ケ樂隊ハ「スウエトランスクヤ」街ヲ奏楽シ
ツツ盛ナル示威運動ヲ為シ無数ノ民衆ハ各所ニ歎呼シ「ス
トライキ」中止ト共ニ市内電燈水道交通機關等漸次復旧シ
方ニ一大祝祭日ノ觀ヲ呈シタルモ秩序ハ午後來少數民警及
労働者義勇団等ニ依リ保タレ夜間何等事故アリタルヲ聞カ
ス在留邦人又無事ニシテ今朝來各官公衙等ニハ夫々新来主
人ノ部署整理中ニシテ各商店ハ開業シ市内微雨ニ拘ハラス
何ナリト活氣ヲ呈シ赤軍ノ入市ト共ニ当地ハ正ニ一新生面
ヲ展開セルノ觀アラシメタリ二十五日赤軍前駆ノ入市ニ際
シ先鋒聯隊長ハ帝國總領事館ノ護衛水兵ヲ見テ我カ指揮將
校ニ対シ同先鋒隊カ約定ノ時刻二十数分先チ進入シタル申
訳ヲ為シ且赤軍ハ司令上官ノ命ニ依リ我カ衛兵ニ対シ敬意
ヲ表スルニ依リ我方ヨリモ同様ニ願ヒ度キ旨ヲ述へ並我カ
歩哨ノ位置場所及其ノ期間ヲ質問シタリ当日進入赤軍ノ沿
道到ル所同隊ヲ用ヒテ街上波打テル群集ニ対シ各部隊長ハ

六四二

七四三

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六四三

六四四

七四四

ノ状ハ確ニ軍隊カ人民ノ軍隊タルノ觀ヲ示シタルト同時ニ
労働者ノ群所々ニ現ハレ來リ漸次街上ニ溢レテ目抜キノ大
道ヲ我物顔ニ横行闊歩シ稀ニ知識階級ノ者ヲ見ルモ殊更服
装ヲ貧シウシ人後ニ立チテ人目ヲ憚ル等宛然無產主義世界
タルノ慨アラシメタリ

六四三 十月二十七日 在ハルビン山内總領事ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

外務大臣宛往電第三五九号ノ別電第三六一號

ノ発電取止ノ件

（十月二十七日接受）

第三六一號

（十月二十七日接受）

往電第三五九号ニ閲シ

同電中別電第三六一號斉多政府ヨリ「オザルニン」宛ノ分
ハ到着セズ十月二十五日「ダリタ」通信ニテ発表セシムル
目的ヲ以テ当地ノ同社ニ着セルモノノ由ナルノミナラズ非
常ニ長文ニテ且「オザルニン」モ時期遅クシテ申訳ナシナ
ド述べタルモノニ付発電ヲ見合セ全文訳文ト共ニ發送セリ
番号御取消ヲ請フ

キ事項有之ハ御回訓相成様致度尚當部名義ハ依然 Diplomatic Mission ト致シ差支ヘナシト被考モ為念
註 本電報ハ本省宛郵送セラレタルモノナリ

六四五 十月二十八日 在浦潮堀政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

赤軍浦潮入市後秩序維持ノ状況労働者ノ心境

等報告ノ件

第三六〇号

（十一月二十二日接受）

赤軍ノ入市後市ノ秩序ハ維持セラレ昼間百名前後ノ兵卒所
在隊ヲ為シ軍歌ヲ高唱シテ市中ヲ練リ歩キ夜間十時以後ノ
一般通行禁止セラレ居ル外何等平常ト異ル所ナク浦潮ヨリ
「ポグラ」及「ハバロフスク」ニ至ル烏蘇里全線ノ汽車ノ
運行ハ二十六日以来復旧シ当地ヨリ斉多政府領内及欧露各
地間ノ郵便電信ノ受付ハ開始セラレ市民ハ漸次恐怖状態ヨ
リ安心状態ニ移リツツアル有様ニテ當地労働者階級ハ一般
ニ此際欧露ト極東トノ併合ヲ希望シ商工階級ハ之ニ反シテ
主張シ居ル模様ナル處當地「デーリーニュース」記者「ユー
イング」氏カ親シク労働者ニ就キ當地裏面ノ事情ヲ探知

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六四五

六四五

七四五

シタル所ナリト言フヲ聞クニ當市労働者ノ多クハ從来徒ニ
夢ノ如キ共産党一派ノ宣伝ニ醉ヒ今回赤軍ノ入市ニ依リテ
労働者階級ノ理想郷出現スヘシトシテ歓迎之レ力メタルモ
其ノ後赤軍側カ労働者ノ赤旗行列計画ニ対シ好意ヲ示サス
直ニ就業ヲ強制シタルコトニ依リテ先ツ失望シ極東造船所
ノ職工千五百人ヲ俄ニ減シテ三百人トナス等職工ノ大淘汰
ヲ決行シ且労働賃金ノ低減ヲ計ラムトスル形勢アルニ再ヒ
失望シ且ハ又當地労働者側ヨリ選出シタル港務局「コムミ
ッサー」カ斉多政府任命ノ港務局長ニ依リテ全然其ノ地位ヲ無視セラレタルコト等ノ実例ニ依リ茲ニ初メテ速ノ夢
ヨリ醒メ漸次前途ヲ悲観スルモノアル模様ニテ又「ユーリ
ング」氏ノ問ニ對シ街上一兵卒ノ語リタル所ニ依レハ彼ハ
欧露「サマラ」地方ノ者ナルカ饑饉ノ慘苦ニ堪ヘスシテ本
年一月ノ頃職ヲ求メテ東ニ向ヒ流レテ遂ニ貝加爾州ニ
入ルヤ徵募セラレテ軍隊ニ伍スルコトナリタルモ月手当僅ニ八十哥（聯隊長ハ食事被服自分持ニテ月五十留）兵役
年限二ヶ年（欧露ハ一ヶ年）結局ハ之ヲ以テ餓ヲ避ケ食ヲ
得ル為一時ノ方便ト觀念シ居ルトニコトニテ尚入市赤軍ノ
兵數約三千沿海州駐屯ノモノ全部ニテ約三万ニ上ルヘク此

当部滯留ニ閲シテハ貴電第六三号及同第七五号ヲ以テ御下
訓ノ次第有之タル處最近當方面ノ情勢ハ既ニ御承知ノ通逐
日斉多乃至「ソヴイエト」露國トノ統一實現ノ道途ニアリ
赤軍及新政權側幹部連モ昨今入市シ茲一両日中ニ施政ニ著
手セムトセリ一般輿論ハ對日態度略々穩當ニシテ日露ノ修
好ヲ欲スルモノノ如クナルモ実權者タル共産党一派ハ未タ
鼻息荒ク動モスレハ我軍乃至政府ノ過去行動ヲ惡罵セムト
ノ態度ヲ示シ居リ此儘放任セハ兩國ノ関係乃至當地方在留
民ノ保護上面白カラサル結果ヲ招来スルノ虞アル事情ニ鑑
ミ之カ緩和善導手段トシテハ單ニ貴諭聯絡情報ノ蒐集ノミ
ナラス時宜ニ依リテハ本官又ハ部員ヨリ親シク當局乃至在
野有力家ト接触懇談ヲ試ミルノ必要アルヘシト被存然ルニ
長春會議決裂後ノ今日故赤側トノ接觸ニハ充分ノ注意ヲ要
スヘキハ勿論ナルモ此際本省ニ於テ特ニ當部ニ於テ心得ヘ

政務部ノ滯留及任務ニ閲スル件

第三五八号

（十一月二十二日接受）

六四四 十月二十七日 在浦潮堀政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六四六

等ハ孰レモ白色「バルチアン」又ハ馬賊匪徒ニ備フルモノナル趣ナリ

註 本電報ハ本省宛郵送セラレタルモノナリ

十月二十八日附在間島鈴木總領事發各分館主任及署長宛間警

機密第五〇五七号写

露國赤軍及高麗革命團ノ行動警戒方ニ関スル件

間警機密第五〇五七号

六四六 十月二十八日 在間島鈴木總領事ヨリ

内田外務大臣宛

露國赤軍及高麗革命團ノ行動警戒方各分館主

任及署長宛通牒ノ件

附属書 右通牒写

機密第三八五号

大正十一年十月二十八日

(十一月六日接受)

大正十一年十月二十八日

在間島

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

總領事 鈴木 要太郎(印)

大正十一年十月二十八日

間警機密第五〇五七号写送付

各分館主任宛

件名

一、露國赤軍及高麗革命團ノ行動警戒方ニ関スル件

(附属書)

本件ニ關シテハ屢次通牒致置候通り露國赤軍ハ既ニ沿海州ニ進出シ其先頭部隊ハ琿春縣及東寧縣界ニ迫リ其追擊ヲ受ケタル白軍ノ一部ハ琿春縣及東寧縣ニ遁入セル状態ニ在リ又高麗革命團ハ赤軍ト行動ヲ共ニシ所在在住鮮人ヲ其勢力下ニ収メツツアルモノノ如シ

此際ニ於テ露支國境附近ニ在ル警察機關ニ於テハ勿論他地方ノ警察機關ニ於テモ彼等ノ行動調査ニ努メ間島琿春地方ニ潜入シ来タル赤軍及高麗革命團員ノ行動ヲ明ニシ警戒措置上遺憾ナキヲ期セラレ且在住鮮人保護ニ努メラレ度此段及通牒候也

本信写送付先 大臣

六四七 十月二十九日 在ハルビン山内總領事ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

日本ノ浦潮撤兵後ノ情勢ニ付齊多政府機関紙

記者ミルキンノ島田副領事ニ対スル談話報告

ノ件

(十月三十日接受)

十月二十七日齊多側機関紙記者「ミルキン」島田ヲ來訪語

ル所左ノ通

宣言シタル由ナリ「コビイジイフ」ハ近ク當地經由浦潮ニ赴クベク留守ハ「ヤンソン」臨時總理代理トナリタリ云々(長春中継十月三十日前十一、五五)

六四八 十月三十日 在浦潮堀政務部長ヨリ

内田外務大臣宛(電報)

日露間ノ修好關係設定問題ニ付「スマイルノ

フ」軍事革命委員會議長ト渡辺領事トノ会談

報告ノ件

第三六八号

(十月三十一日接受)

日本軍ノ浦潮撤兵ト共ニ對日問題ハ頓ニ一般露國社會ノ興味ヲ失ヒ之ニ反シテ東支鐵道問題時局問題トナレリ又政治

上哈爾賓ノ価値ハ日本軍ノ撤兵終了ト共ニ頓ニ下落シタリ率直ニ云ハシニ露國民ハ日本ノ最後ノ一兵ガ沿海州ヲ去ルノ瞬間迄決シテ日本政府ノ撤兵声明ヲ信用セザリキ「スリ

ンスキ」ハ既ニ浦潮ニ到着シ浦潮ニ居住スルコトヲ欲セザル白軍其他ニ對シテハ隨意ニ北滿洲ニ赴クコトヲ許シ且

之等避難民ニ對シテハ無資乗車ヲ許シ居レリ昨一十六日得タル情報ニ依レバ齊多政府ハ「メルクーロフ」政府ト締結セラレタル森林其他ノ利權ニ関スル契約ハ全部無効ナリト

本モ修好ヲ欲セルハ疑ハザルモ忌憚ナク云ヘバ大連長春兩

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六四七

六四八

七四七

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六四八

七四八

會議ニ際スル我方ノ期待ハ露國代表側ノ不誠意的態度ニ依リ裏切ラレタル為日本朝野ノ對露信用低落ノ不幸ヲ見タルハ遺憾ナリ實ハ余一個人トシテモ露國修好論者ニシテ先ノ會議再開ニモ尽力シタル処「ヨッフェ」氏ノ態度ノ為彼ノ如キ始末ニ終リタルヲ以テ今ヤ殆ド貴方ノ真意ヲ了解スルニ苦シムニ至レリ日本當局及在野有力者ハ貴方ノ誠意ヲ認メザル限り輕々ニ長春ノ二ノ舞ヲ踏ムガ如キコト無カルベシト答ヘタルニ「ス」ハ曩ニ柴山參謀長ト赤軍入市談判ノ際交換シタル好感情及立花司令官ノ送リタル留別ノ辞ニ於テ両國将来ノ關係ヲ歌ハレ貴國輿論モ全露政府トノ交渉ノ要ヲ認ムルニ至リタル報道アル際貴官ニシテ此ノ言アルハ甚大意外トスル所ナリ双方ノ輿論ガ通商開始修好關係ノ設定ニ在ル以上吾人ハ之ニ進マザルベカラズト述べタルニ依リ渡辺ハ貴方輿論ナルモノハ一般的ノモノニ非ズ一黨派乃至或言論界ノ所說ト見ル可シ凡ソ物ニハ順序アリ日本ハ曾テ露國ヲ敵トシタル事無キモ貴方ノ行動ニ余儀ナクセラレテ不本意ナガラ貴我異常ノ關係ニアルノミ之ヲ常態ニ復セシメントセバ先ヅ貴方ヨリ対日從來ノ態度ヲ改メザル可カラズ然ルニ余儀無キ我駐兵中ハ固ヨリ既ニ撤兵後ノ今日ニ

在リテモ依然貴方ハ排日的言論ヲ続行セラレ居リ斯クテハ御希望タル兩國ノ親善ハ望ミニ難カル可シ予ハ序ナガラ極ク友好的ニ勸告セソ貴方ガ入市當初トシテ革命氣分ノ脱線ハ一応之ヲ諒トスルモ對内党派的見地ヨリ徒ラニ排外排日的ノ煽動セラル時ハ結局反対ノ結果ヲ招キ當局自身窮地ニ陥ル可キニ依リ貴下等有力家ハ此際特ニ言論界ノ善導ニ注意アル可シ最近當地穩健派諸新聞ガ公正ナル対日態度ヲ示セルニ反シ予ハ遺憾ナガラ貴方側ノ朝野ノ言動ハ之ニ反スルモノアルヲ指摘セザルヲ得ズ貴説交渉ノ如キ先ヅ此辺ヨリ変調ヲ見ザレバ物ニナラズ予ハ多分一、三週間位ハ滞留スルナラムガ衷心貴方ガ布告等ニ唱ヘラルル眞ノ建設事業ニ努力セラレ対内外政策ニ於テ「エボリューション」ニ入ラルルヲ目撃シ度ク考フル者ナリト説キ尚委員会ノ性質ト齊多政府關係乃至齊多ト「ソビエト」政府合併問題等ニ関シ質問ヲ發シタルニ彼ハ現委員会ハ一時的ノモノニシテ單ニ公安維持ニ任シ民意ニ依リ県政厅其他ノ關係決定ヲ見る可ク齊多ハ之ニ干渉セザル可シ民意トハ労働者農民ノ意向ニシテ其發露ハ各團体ノ決議ニ基クナドト齊多政府ノ憲法及法律トノ關係ヲ無視シ一種「ミーチング」的決議ニ依リ

「ソビエト」トノ合併モ出来ルガ如キ意向ヲ洩シ居リ且尚渡辺滯浦中屢々会談シタキ旨ヲ申出デタルニ依リ渡辺ハ時間ノ關係上再会ヲ約シ置キ引取リタリ

六四九 十一日

在浦潮堀政務部長ヨリ
内田外務大臣宛（電報）

沿海県軍事革命委員会ノ行政機構改革及国民

革命軍總司令官「ウボレウ・イッチ」ノ指令報

告ノ件

第三六八号

（十一月一日接受）

三十一日当地新聞ハ沿海県軍事革命委員会行政部長「シリヤノフ」カ命令ヲ以テ從來ノ当市府民警部ヲ廢シ其ノ事務財產ヲ新民警庁ニ移管シ前州政府ヲ二十八日限リ廃止シ其ノ勤務員ヲ罷免シ同庁事務及財產ヲ新委員会ニ（脱）尙前旅券部及州測量部及印刷部ヲ廢止シテ同シク新委員会ニ夫々引渡シ財產等ハ新民警長之ヲ封印保管スヘク又前州「ゼムストヴォ」自治厅法律顧問部ヲ改造シ旧職員ヲ三十日限り免職シ烏蘇里鉄道民警部ヲ新行政部ニ隸屬スヘク命シタル旨發表セリ

同紙上ニハ「ウボレウ・イッチ」ノ二十八日附軍令ヲ掲載セリ

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六四九

六五〇

十一月三日

在浦潮松村總領事ヨリ
内田外務大臣宛（郵送電報）

七四九

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六五一

七五〇

「シベリア」ノ杉野領事ニ対スル談話報告ノ件

(十月二十八日発電不着ノ分)

第三四五号 (十一月十日接受)

十月二十八日午前齊多軍司令官「ウボレウイッヂ」ト杉野

ガ会見シタルニ左ノ通語レリ

一、各国在留民ノ生命財産ノ安固維持ヲ確保シ日本在留民

ニ対シテハ特別ノ注意ヲ払ヒ居レリ将来極東ニ於テハ日

露ノ経済的緊密關係ヲ保持セザル可カラザルコトヲ信ズ

此ノ方針ニ依リ施設ヲ為ス可シ

一、露國代表者ノ駐在ナキ各國ノ領事即チ支那、独逸及米

國以外ノ各國領事ヲ認メザルニ依リ此ノ旨貴國總領事ニ

伝ヘテ本国政府ニ報告セラレタシ私的關係ニ於テハ從來

ト変ルコトナシ

一、本朝仏國軍艦浦潮軍港ニ入港シテ礼砲ヲ發射シタルニ

対シテハ抗議ヲ為ス可シ

一、浦潮要塞復興ニ努ム可シ

一、「ニコリスク」其他ノ地ニ於テ鮮人團体ノ武装ヲ解除

シツツアリ尚治安ヲ害スル鮮人ニ対シテハ取締ヲ嚴重ニ

致ス可シ

一、日露會議ハ最近当浦潮ニ於テ開催セラル可シト思ハル

本日本官ニ対シ右ニ対スル不平ヲ洩ラシ居タリ
(十月二十八日発電不着ノ分)

六五一 十一日 在浦潮堀政務部長ヨリ

極東ノ政情刻々ソヴィエト化ノ状況ニ鑑ミ我

方ヨリ適任者ヲ齊多派遣方輿申ノ件

第三八四号 (十一月七日接受)

極東ノ政情ハ累次報告ノ通り時々刻々ニ「ソヴィエト」化

ト同時ニ歐露トノ併合成立ノ道途ニアリ「ウボレウイッヂ」

軍ノ入市「コボゼフ」首相ノ来浦ハ共產黨一派ノ計画実行

ヲ一層急ナラシメ職業組合員ノ真意ヲ發表スルヲ得ザル儘

労働組合ハ殆ド不意打チ強制的ニ共產黨指揮者ノ指導指令

ニ盲従シテ各種ノ「ソヴィエト」謳歌的決議ヲ為シ本日モ

赤側機關ハ職業組合ノ重ナルモノガ當市ノ「ソヴィエト」

代表員選挙ノ結果ヲ報シ居リ或ハ他ノ各地ニ於テモ同様ノ

手段ニテ齊多議會開催迄ニハ既ニ全極東ヲ「ソヴィエト」

化セシメテ出席議員ハ各州「ソヴィエト」代表員タラシム

ルノ計画ナラズヤトモ察セラレザル廉無キニモ非ズ何分今

次ノ齊多議會ガ現政體ヲ如何ナル形式ニ於テ如何ニ解決ス

第三四八号 (十一月十日接受)

六五一 十一日 在浦潮松村總領事ヨリ

内田外務大臣宛(郵送電報)

極東共和国軍浦潮入市後ノ市内秩序維持ノ状

況等報告ノ件

第三四九号 (十一月十日接受)

既電ノ通り赤軍ハ入市後極力市内ノ秩序維持ニ力メ前政權

時代ニ比シ著シク安静ノ感アリ労働社會ハ赤軍入市ト共ニ

大ニ示威運動行ハレ大ニ無產階級ノ為ニ氣ヲ吐クナラント

予期シタルニ労働者ニハ直ニ就職ヲ命ジ嚴格ニ秩序ノ維持

ヲ計ル為彼等社會ハ一同意外ノ感ニ打タレツツアリ我在留

民ノ保護ニ関シテハ前後二回「ウボレウイッヂ」司令官ヨ

リ親シク我ガ杉野領事ニ言明アリタル次第ニ付今後ト雖最

早生命財産ニ危害ヲ受クルノ憂ハ万々之ナカルベシト思考

セラル尚赤軍トノ諒解並赤軍入市前後ノ措置ニ關スル日英

米三国团ノ關係ハ英國側ガ極力日米トノ協調ヲ望ミタルニ

拘ラズ米國側ハ兎角冷淡ノ觀アリ往々単獨ノ行動ニ出ヅル

為遺憾ナガラ十分貴電第二三二号ノ御趣旨ニ副フ能ハズ此

趨勢ハ今後ト雖変ズルコトナカル可シト察セラル英領事モ

ルヤ莫斯科ガ之ニ対シ如何ナル態度ニ出ヅルヤハ大体想像シ得ラルモ猶実地ニ於テ之ヲ監視スルハ帝國ニトリ緊要事ニシテ況ンヤ日露交渉再開カ最近哈爾賓乃至齊多「ダリタ」通信等ニ依リ伝ヘラル如ク(島田會見トンテ宣伝セルモノト考ヘラル)帝國ニ於テモ促進ヲ望マル如キ意向ニモアラバ此ノ際切メテハ莫斯科直系ノ有力家ノ集マレル齊多ニ於テ先方側ト直接相当接觸ヲ保ツコト必要ナラズヤト存セラル處昨五日渡辺「ウボレウイッヂ」會見ノ際モ「ウ」ヨリ我代表者ノ莫斯科又ハ齊多ニ来ルコトハ大ニ歎迎スル旨切言シタリトノコトニモアリ旁々此際至急在哈爾賓島田又ハ満洲里田中其他適當ノ人物ヲ齊多ニ御派遣相成ルコト有益ナラント存セラルニ付借越乍ラ卑見電票尚本省ノ對露意向ハ當部殘留中ニモ承知致シ置キ度キニ付御差支無キ限リ御内示相成ル様致シ度シ

六五三 十一日 在中国小幡公使宛(電報)

鳥蘇里地方ヨリ多數武装鮮人南下ノ脅威ニ対

シ国境地方ノ治安維持方ヲ中国政府ニ要請ス

ル様訓令ノ件

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六五四

七五二

第五八二号

往電第三九〇号ニ関シ

斎藤朝鮮総督発本大臣宛電報ニ依レハ沿海州方面ニ於ケル白軍ノ敗退ト共ニ多数ノ武装鮮人南下ノ模様アリ何時支那領土ヲ越エ朝鮮国境ニ侵入スルヤモ計リ難キ情勢ニ進ミ居ルニ付キ予メ之カ防衛方ニ関シ張作霖ニ交渉アリタキ旨同総督ヨリ赤塚總領事宛直接電照シタル趣ナル處本件ニ関シテハ前記往電第三九〇号ニ基キ既ニ貴官ニ於テ支那側ニ対シ警告ヲ発セラレタル筈ナルモ貴官ハ此際更ニ左記ノ趣旨ヲ支那政府ニ申入レラレ結果回電アリタシ尚本件ニ関シテハ別電第五八三号ノ通り浦潮總領事ニ電訓シ置キタリ

沿海州及北満地方我軍隊撤退後朝鮮国境方面ノ治安維持ニ關シテハ帝国政府ニ於テハ夙ニ我軍撤退後ノ状況ヲ推想シ撤兵前早キニ臨ムテ支那側ニ於テ相当警備施設ノ必要アルコトヲ警告シ其切実ナル考慮ヲ求メ置キタル次第ナル處我方撤兵後今日マテノ情報ニ依レハ沿海州方面ニ於テハ既ニ白軍ノ敗退ト共ニ南部烏蘇里一帯赤軍ノ手ニ帰シ其間ニ混入セル多数ノ武装鮮人ハ何時支那領土ニ侵入シテ我居留民ヲ威脅シ尚進ンテ朝鮮国境ヲ侵スヤモ計リ難キ情勢ニ在リ

杉野ヨリ第四六号

外務大臣ヘ転電アリタシ

第五六号

赤軍当地ヘ入市後月ナラズシテ極東共和国各州ハ労農露國

ニ併合サレテ一般ニ不安ノ氣満チ当地政務諸般ノ方針動搖シ命令規則ハ晨ニタベニ發布セラレ皆帰趣ニ迷ヒ政情ハ不定渾沌タリ

当方面ニハ目下戒厳令ヲ布キ白残党反動派及匪徒（馬賊又ハ武装鮮人）ニ備ヘアルガ故一般ノ行政ハ軍事革命委員会ニ於テ取扱ハレ居レリ追テハ「ソヴィエト」制ニ移ル可ク施設ヲ成シツツアリ當「ニコリスク」軍軍事革命委員会ハ沿海県軍事革命委員会ニ隸屬シ委員長「レベデフ」（興凱湖沿岸ニ活動セリ）民政委員「ステパノフ」（「コンドテテンコ」ニ根拠ラ有セリ）軍務委員「キバリソフ」（「レベデフ」ノ部下）ナリ孰レモ「ニコリスク」ヲ目標トシテ活動セル「ペルチザン」首領株ナリ民警長モ「ペルチザン」又民警ハ大半「ペルチザン」ナルモ好ク規律ヲ守リ市内ノ秩序安寧ヲ維持シ得テ妄リニ侵スコトナシ蓋シ標榜ニシテキ行動ヲ敢テセシ者ハ其ノ職ヲ解キ村落ニ帰農セシメ又

若シ万一支那側ノ警備十分ナラサル為上記ノ如キ事変ヲ惹起スルカ如キコトアル場合ハ帝国政府ハ義ニ申入レ置キタル通リ乍遺憾自衛上臨機ノ措置ヲ執ルノ已ムナキニ至ルナシヲ保シ難キニ付キ義ニ帝国政府ノ申入ニ依リ既ニ夫々適当ノ措置ヲ講セラレタルコトトハ存スルモ此際国境地方一帶ニ於ケル治安維持ニ関シテハ支那政府ニ於テ更ニ一層深甚ナル考慮ヲ加ヘラレムコトヲ要望セサルヲ得斯尙前回ノ帝国政府申入ニ依リ支那政府ニ於テ講セラレタル措置並ニ現ニ執リツツアル施措ニ付キ帝国政府参考ノ為具体的詳細ノ説明ヲ与ヘラレムコトヲ望ム

右別電ト共ニ奉天、吉林、間島ニ転電アリタシ

註 七月十二日外務大臣発小幡公使宛第三九〇号ヘ沿海州及北

満撤兵後ニ於ケル朝鮮国境方面ノ治安維持ニ関シ中国政府

ノ説明ヲ与ヘラレムコトヲ望ム

六五四 十一月二十五日 在浦潮松村總領事ヨリ

内田外務大臣宛（電報）

赤軍治下ノニコリスクノ状況杉野領事ヨリ報

告ノ件

第三八五号

（十一月二十五、六日接受）

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六五四

七五四

セズ農民ハ今日迄稼ギタル金（鮮銀紙幣）ヲ家屋ノ建テ増シ新築其ノ他ノ器具購入等ニ消費シテ貯ヘ無キハ從来各紙幣廢止ノ為損失ヲ蒙リタル苦キ経験ニ懲リタレバナリ

市場ニ流通スル貨幣ハ朝鮮銀行券ニシテ露國金銀貨ハ稀ナリ相場金百ニ対シ百四十ナリ

「コンミサル」ハ村落ヲ巡回シテ勞農露國ニ併合ノ利ヲ宣伝シ到ル所勞農民等理解ナキ雷同贊成報告書ヲ作成シテ發表セルガ却ツテ農民ハ我等ハ外國干涉ヲ除キ得タリ此ノ次ニハ共產「コンミサル」ノ驅逐ヲ為サザルベカラズト言ヒ居ル由ナリ

密偵網ハ巧ニ敷カレ街上ノ会話モ前後ヲ窺ヒ其ノ網ニ掛ルヤヲ見定メテ密談スル状態故嫌疑ヲ招ク處アル処ヘハ互ニ警戒シテ出入ヲ避ケツツアリ

当地ニハ捕縛監禁等ノ事実少ナキハ赤軍入市前有產有識階級ハ他ニ逃竄シタレバナリ其ノ殘留財産ハ奪收サレテ裝飾品家具等ハ「ハバロフスク」ヘ搬送サレタリト市民ノ税金滯納者ニ対シ強制執行ヲナシテ家具家屋ヲ公売ニ附シ居レリ目下財界不況金融停滞ノ折柄強制処分ハ非道ナリト低キ呪ノ声アリ昨今正規赤軍慰安ノ為「祝日」ヲ執

行シテ有ラユル方面ノ階級ヨリ金錢物品労力等ノ後援募集ヲ義務的ニ強ヒツツアルガ現下一般ノ氣分振りニテハ面白キ成果ヲ得ザルベシト

財政ノ根底タル財源ハ各人ノ懷ヲアテニシテ絞リ上グル外ナキ状態ナルガ之ハ過渡期ノ急変態ナルベシ而シテ勞農亦革命委員会ノ要部ニアルモノハ一齊ニ國民經濟ノ促進ノ為隣境ニ真実ノ通商密接關係ヲ開キ日本又ハ外國ノ投資ニ依リテ速ニ崩潰シタル國民經濟ノ窮境ヲ救ハント説キツツアリ鮮人ニ対スル取締ハ徹底的ニ行フモノノ如ク治安ヲ紊ス惧アルモノニハ市外ニ退去ヲ命ジ又鮮人ノ武装ヲ絶対ニ許サズ「ザンチャゴー」方面ノ武装鮮人団討伐ノ為赤軍百二十名ヲ派遣シアリ軍事革命委員（脱）所ニ依レバ我等ガ「バルチザン」トシテ多年活動中各部落ニ於ケル鮮人ノ為手古摺ラサレタル経験上鮮人取締方針綱領決定ノ要アリ差当リ鮮人ノ我儘ナル行動ヲ仮借ナク膺懲シ居ル次第ナリト高麗労農会（鮮人民会）ハ元來帰化鮮人ヲ以テ組織サレ当地一揆（此意味不明）ノ有力者ハ之ニ加入セズ露國側ノ鼻息ヲ伺ヒ活動シ得ザル模様ナリ

阿片館、賭博場、淫売場等營業ハ嚴禁サレタリ

地方住民 四五、六八四、一九一
軍事官憲 二五、七九三、一一三
其他 二二、〇五五、三三四

前極東共和国外務省内二設置セラレタル日本ノ武力干渉ニ基ク損害調査委員会ノ調査結果
二閥スル件

右御参考迄及報告候 敬具

六五六 十二月一日 在滿洲里田中領事代理ヨリ

ニシテ尚提出セザル向アリ幾分增加スペシトノコトニ有之

候

六五六 十二月一日 在滿洲里田中領事代理ヨリ

元極東共和国外務省内中央委員会発表ノ各地
ニ於ケル日本駐兵ノ為蒙レル損害高ニ付報告

ノ件

公第一四三号 (十一月九日接受)

大正十一年十二月一日

在滿洲里

領事代理 田中 文一郎（印）
外務大臣伯爵 内田 康哉殿

日本ノ武力干渉ニ基ク損害ニ閥スル件

当地発刊「ノーウォースチ、ジーズニ」ノ十一月二十九日知

多発電報トシテ報ズル所ニ拠レバ前極東共和国外務省内ニ

設置セラレタル日本ノ武力干渉ニ基ク損害調査委員会ガ今

日迄ニ受理セル各種ノ資料ニ基キ調査セル損害高ハ沿海州

ヲ除キ総計一億五千五十三万二千五百五十三留ニシテ之ヲ

大別スレバ

運輸

五六、九九九、九一三留

六五五

元極東共和国外務省内中央委員会ハ沿海州ヲ除ク各地ニ於ケル日本駐兵ノ為蒙レル損害ヲ調査シ合計一億五千五十五

七五五

一八 「シベリア」ニ於ケル日本軍ノ撤退問題一件 六五六

三万二千五百五十三留十二哥ヲ計上シ各新聞及電報ヲ以テ

殊更ニ公表シツツアルカ右損害ノ主ナルモノヲ挙クレハ左

ノ如シ

運輸交通

五六、九九九、九一三留三九哥

農民 四五、六六四、一九二留九九哥

陸軍 二五、七八三、一一三留五九哥

右報告申進候 敬具

事項一九 「シベリア」及東支兩鐵道管理ニ関スル件

六五七 一月六日 在浦潮永井政務部長代理ヨリ
内田外務大臣宛

日本軍ノウスリー鐵道運行干渉問題ニ關スル

件

機密軍政送第一号

(一月十二日接受)

大正十一年一月六日

浦潮派遣軍政務部長代理

副領事 永井 清(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

鉄道運行ニ付日本軍ニ対スル米國側ノ批難ニ關スル件

本件ニ關スル貴電客年合第四二二号華府來電当地野戰交通
部長ノ申出ニ依リ内示致候處同部長ヨリ之ニ基キ今般別紙
ノ通リ參謀次長及陸軍次官宛反駁文ヲ送附シタル筈ニ付此
段及報告候 敬具

(欄外註記)

「本件貨車抑留ニ対スル華府全權ノ意見ナリ」

(別 紙)

七五七

一月六日附芝生野戰交通部長ヨリ尾野陸軍次官宛交參發第一

号写

日本軍ニ依ルウスリー鐵道ノ運行干渉ヲ非難セル米國側報道

ニ付実情報告ノ件

交參發第一号

大正十一年一月六日

野戰交通部長

芝生 佐市郎

陸軍次官 尾野 實信殿

日本軍鐵道運行干渉云々ニ対スル反駁

客年十二月二十四日附外務大臣発永井副領事宛電報ニ依レ
バ最近華府ニ於テ我軍ノ鐵道運行干渉ヲ非難スル者アリト
ノ事ナルガ當方面ノ鐵道問題ニ關シテハ既ニ其都度詳細報
告シアル如ク小官ハ常ニ東支烏蘇里兩鐵道ノ權限ヲ尊重シ
其營業ノ振興ヲ希望シ居ル次第ニシテ妄ニ鐵道ノ運行ニ干
涉シタルコトナシ若シ夫レ車輛散逸防止ノ如キニアリテハ